

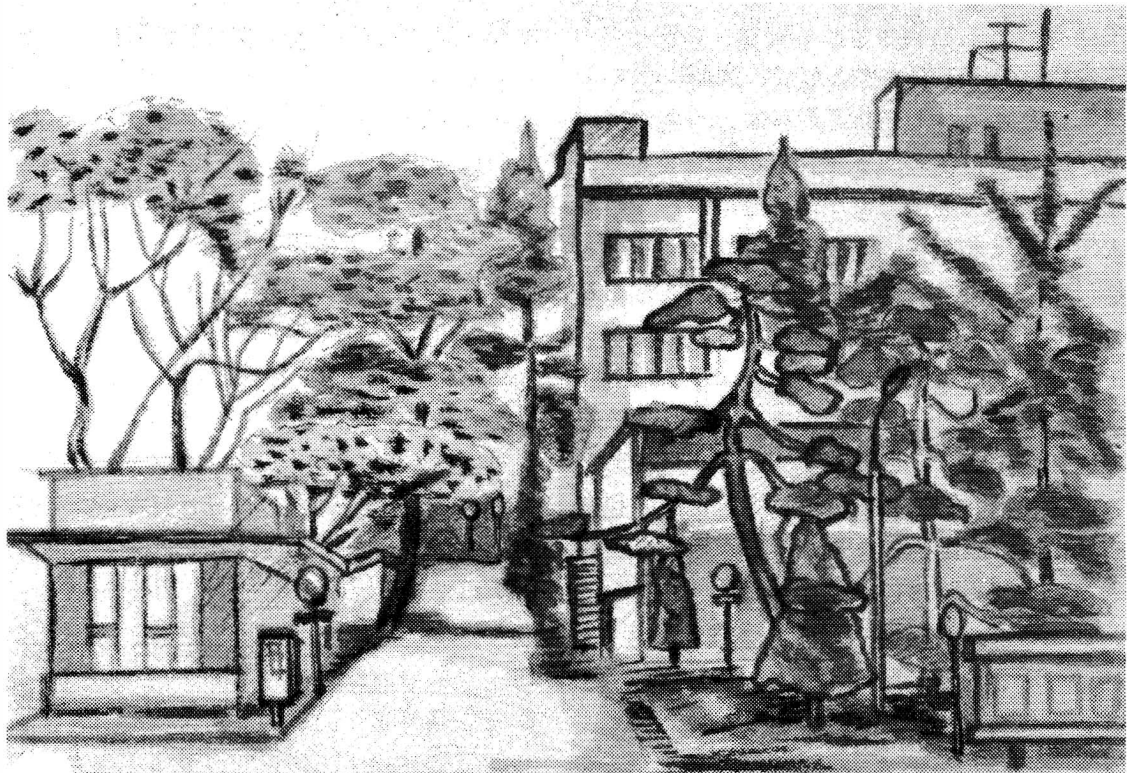
学園ニュース

富山大学

No.43

編集 学園ニュース編集委員会 発行 富山大学

昭和 58 年 12 月 10 日



学内風景（その8）学生部・保健管理センター前 桃井 真理

目 次

| | | | |
|--------------------------|---------------------|------|----|
| 工学部移転統合問題に関する報告 II | 富山大学長 | 柳田友道 | 2 |
| 専門学部移行に際して | 教養部長 | 梅原隆章 | 3 |
| ひんけつ | 保健管理センター所長 | 浅井 亨 | 4 |
| 新任教官紹介及びあいさつ | | | 5 |
| 「なつしま」に同乗して | 教養部教授 | 藤井昭二 | 7 |
| 荒れ野の向日葵 | 理学部助手 | 竹内 章 | 9 |
| Toyama Times | Th. R. Hofmann | | 11 |
| 西ドイツ・ロイトリンゲン教育大学での留学を終えて | 教育学部養護学校教員養成課程 | 石倉充紀 | 12 |
| 昭和58年度教員養成課程合宿研修を終えて | 実行委員長 | 得永 明 | 13 |
| 教育実習の一局面 | 教育学部長 | 大澤欽治 | 14 |
| 教育実習（小学校・中学校・養護学校・幼稚園） | | | 15 |
| 製鉄所の思い出 | 工学部金属工学科金属材料学講座 留学生 | 葉 英華 | 17 |
| 学部，保健管理センター，学生部だより | | | 18 |

工学部移転統合問題に関する報告 II

富山大学長 柳 田 友 道

この問題については本学園ニュース№40（昭和57年12月15日発行）に報告して以来1年を経過したが、その間本年3月には五福地区における工学部の新校舎建築も開始され、永年の悲願であった工学部移転統合も手の届くところまでに立ち至った。幸い政府予算の前倒し政策もあって、工事計画は予期した以上に順調に進展している。

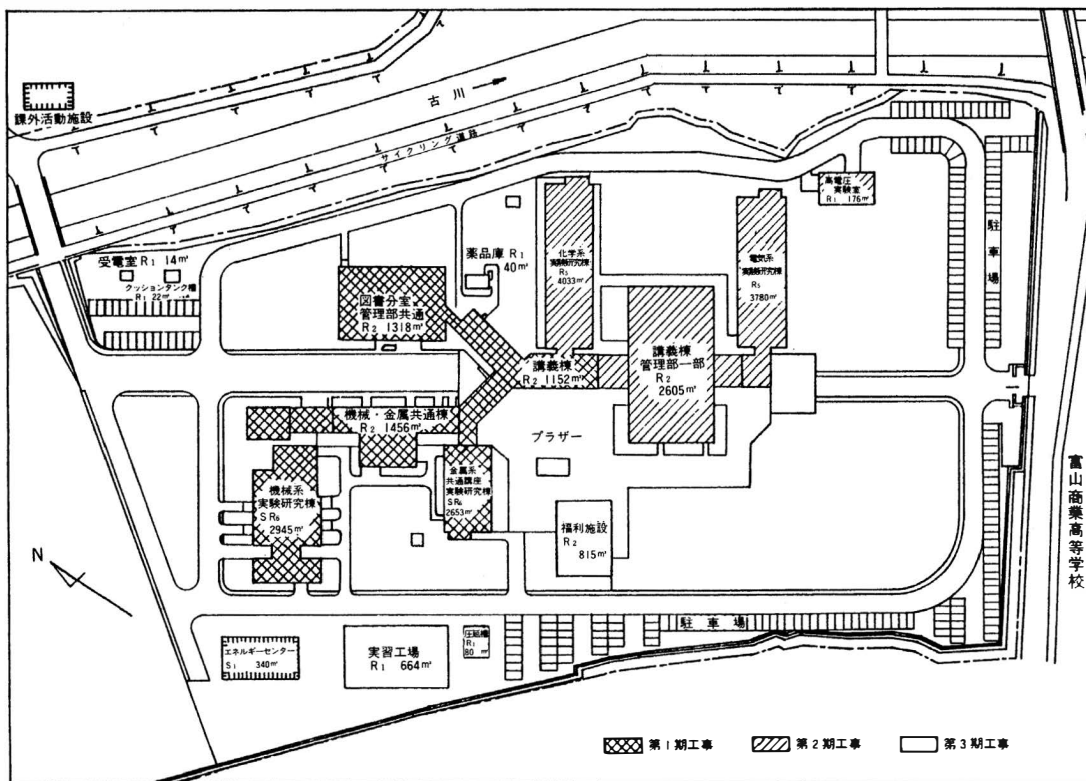
工学部校舎建設の第1期工事として、図面に示すように、機械系、金属系および共通講義棟、図書分室、管理棟など、鉄骨鉄筋コンクリート造6階建（一部2階建）、延面積9,524㎡の工事が現在進められている。本工事は本年11月末をもって、各棟のコンクリート打も完了し、今後は建物の外部、内部の仕上げを進めることとなり59年3月竣工を目指している。

第2期工事としては電気系、化学系および共通講義棟など、延面積10,590㎡の計画があり、これも順調に進行していて、本年12月着工、60年1月竣工の予定である。なお第3期工事の実習工場および福利施設の完成時期は未だ流動的であるが、できるだけ早期に完成できるよう努力したい。

このような工事の進展に伴って、工学部においては現在移転計画を進めており、金属工学科、機械工学科、生産機械工学科は59年9月頃、電気工学科、工業化学科、化学工学科、電子工学科は60年9月頃に移転完了を予定している。

一方工学部の移転と関連して高岡市二上地区に高岡短期大学（前報では高岡産業短期大学となっているが、正式名称はこのように改められた）の設置が決定して本年10月にめでたく開学した。そして初代学長として横山保氏（大阪大学経済学部教授）が任命され、現在61年4月学生受入に向けて、その準備が進められている。

工学部の五福移転統合については以上のように進んできたので、これまでこの問題について審議を進めてきた富山大学工学部移転促進小委員会は本年1月28日付をもってその任務を終了した。工学部校舎の建築に当っては、その資材搬入のため学内交通に与える影響をできるだけ少なくするようつとめているが、交通事故防止のため今後共教職員学生諸氏の御協力を御願ひする次第である。



専門学部移行に際して

教養部長 梅原隆章

毎年10月中旬には、教養部から専門学部への移行の教授会が開かれる慣例である。それで留年する学生が少いことを念願しているのであるが、期待に反して年々留年者が増加する傾向である。

戦前の学校では「落第」というのが通例であって、社会的評価においても大変不名誉なこととされ、必死になって及第するように励み、また励まされたものである。それで落第というものには一種の悲愴感が伴っていたと思うのである。

しかし、現今では留年というのは、至極あたりまえの日常茶飯事とうけとめられて、社会的にもありふれたことであると、軽くうけとめられている。

科学を学ぶときは、言葉の規定を厳密にするのが当然であるが、日本語には二様にとれるあいまいさがある。表面をつくろうために利用されやすい。例えば戦時中には、軍隊が「退却」することを恥としていたので、「転進」という言葉に置きかえられ、「敗戦」は不愉快なので「終戦」といい、占領軍は嫌なので、「進駐軍」と表記してせめてもの慰めとして、憂さを晴らすようにする日本の思考が育てられている。「落第」もそのようなパターンで「留年」といいならわされる例となっているようだ。

教養課程に在籍の間に、広く学門の知識を吸収して人間としての望ましいあるべき姿は何であるか、生きるという真実の意義を探求して自己の人格形成を充実するように努めてほしいのである。だからそのために時間をかけることに重点を置いて、教養部に留年しようと思えば、それは非常に歓迎すべきことである。けれども、なまけて怠惰にだらしく勉強しようとせず、その結果留年するというのであれば、誠実に反省してほしいのである。留年者は、

昭和54年度入学生 244名

昭和55年度入学生 269名

昭和56年度入学生 278名

昭和57年度入学生 322名

となっていて、毎年増加の傾向にある。これはあまり喜ばしい現象とは考えられないので、学生諸君の一層の奮起努力を願っている。

留年者は個々に単位取得の選択が違っているから、各人についての理由はまちまちで、一括しては論ぜられないが、一般に外国語の単位を充足できないものが

多いといえる。

言葉は、母国語の修学においてはその母親の口真似から始まって習得するようになる、中学教育よりの英語を初習するとすれば、先生の発音を真似ることから始まり、文字を習い、書くことを覚えてゆく。このことを思い起してみるならば、大学に入学して第二外国語を学ぶときも、幼児の如く初心にかえって、すなおな心で予習・復習をやってほしいのである。偉くなったつもりでも、何事も物事を習学するときはスタートから謙虚になって、何度も反覆練習することによって上達するという鉄則を忘れてはならないと思う。

教室に入って、先生から教えられることは、テレビやラジオで独学する苦しみと比較すれば、マン・ツー・マン・システムは本当に恵まれた環境であるということに気付いてほしいものである。そして、出席することを是非とも最良の規範であると再確認してほしい。

試験前になると生協のゼロックスの前に人だかりが出来るようになるが、他人のノートを複写して安心してしまうと、それさえ読了することが不必要なような錯覚におそわれることがあるようで、私どもの史学の史料蒐集の段階でも苦心して古文書を解読してノートにとるときは、本当にそれが自分の身についた史料となるが、写真でミニ・コピーに仕上げたり、ゼロックスで複写したりすると、いつでも読めるであろうと思ってしまうことを反省して、試験前にあわててゼロックスする学生たちが本気でそれを学習するのかどうかを危ぶむのである。

教養課程の期間には、つとめて自由な時間を持つことは大切なことであって、自分が最も好きな勉強をのびのびとなしとげるためには、是非拘束されない時間が必要であると思う。しかし何の目的もなく意欲もなく無為に時間を浪費することはつつしんでほしい。誠実に生きるためには、一つの作業仮説を持って、その目標に一步でも近づくようにしてほしいものである。

また読書という習慣は、人間の思考を深める練習には最もすぐれた手段であると思っている。大変悪訳の本もあるが、その原書をしらべて読んでみると、どうしても理解しにくかったことが、案外に楽にわかったりすることがあった。森鷗外という有名な文学者の訳した「ファウスト」を、レクラム文庫の原文と比較し

て読んだことがあるが、実に感服したことは、どうい
う文章に訳してあるかというときに、本当に柳暢な美
くしい日本語となっていることに驚いた記憶がある。
直訳的に文章としたよりも、成程、鷗外の表現にした
方が日本語の表現としてピッタリと正鵠に当たっている
という点で、鷗外は本当の美しい日本語に練達した

人物であったことを再認識したのである。「読書百遍、
意おのずから通ず」ということも、漢文の古典を何度
も読みかえしているうちに、その言わんとしている真
意に到達できたことがあって、古人の格言には味があ
ると思うようになった。教養部在籍中に読書して思索
する習慣を是非とも身につけてほしいと念願する。

ひ ん け つ

保健管理センター所長 浅井 亨

現在のように電話が自由に使えなかった頃の話であ
る。上京して下宿から通学していた大学生が友人とふ
らりと入った呑み屋でしこたまばられて無一文となり
困り果てて田舎の親父に「シングルキトク、ヤマイキン
ケツ」と電報を打った。当人は茶目っ気な電文に満足
して下宿で風呂につかってにやけていたところ在京の
叔父さんが「茂が大分悪いそうだが、知り合いの病院
に入院できるようにしてきたので」と下宿へ尋ねて来
た。何のことはない、親切な郵便局員が「キンケツ」
を正しく(?)「ヒンケツ」と訂正して配達してくれ
たために、せっかくの彼の名文句が大騒ぎのもとにな
ったのであった。もっとも若干の金はせしめたようだ
から目的は果たしたのであったが。

別に貧血がすぐに危篤状態に陥る恐い病気だとか
金欠や金権の話をする積りはないが、貧血と金欠は言
葉以外にも類似点があるので考えてみようというだけ
の話である。金は天下のまわりものと言われるが、血
の方は全身をくまなくめぐっているまわりものである。
金も血もよどんでいては全く役に立たない点も似てい
るし、古いものが処分されて次から次へと新しいもの
が作られてまわってある点も似ている。

金の方はどの位で新しくされるのか知らないけれど
赤血球の方はラジオアイソトープを用いた実験から、
平均して120日位で死滅すると考えられている。しか
し実験のために操作が加わるので完全に自然な状態
ではもう少し長生きしていると思われるが、ともかくも
赤血球の寿命は4ヶ月と少しと考えて大差ないであ
ろう。

人体には5ℓぐらいの血液があるとみられるので、
大ざっぱに毎日40 mlぐらいずつの血液が処分されて
いると言えようか。もっとも血液の中の赤血球は体
積比で40~50%くらいだから毎日40 mlぐらいの
血液に含まれる赤血球、約20 mlが失われていると考
えてもよい。

このように毎日、崩壊し失われていく赤血球は生後
は主に骨髄の細胞髄で生産されて補給されると同時に
脾臓や肝臓には大量に貯蔵されていて緊急用の備えも
できている。しかし、この造血機能が障害されたり、
原材料が不足したり、製産が消失に追いつけなかつた
りすると様ざまの問題が起きてくる。赤血球が過剰製
産に陥った多血症もあるが、真性の增多症は比較的
に稀で、大半は他の疾患に伴う症候であるので今は問題
にしない。また、血液疾患のうち、リンパ系なども含
めた白血球系や血小板系の疾患、線溶系や血液凝固因
子の系統の疾患には重篤なものも多いが、何といつて
も大学生で一番問題になるのは貧血である。

貧血というのは血球の絶対数が減る乏血とは別で、
赤血球の中に含まれていて酸素と炭酸ガスを運搬する
役目を果している「ヘモグロビン」が減少した状態
である。慢性的な出血とか、血管内での溶血とか、造血
機能の減退とか、いろいろな原因によって起る種々の
貧血があるが、大学生で比較的多いのは鉄が不足して
起る貧血である。それと最近では低カロリー、低蛋白
質の食事を意識的にとる際に間違えて必須アミノ酸ま
で制限している点の一部が問題になっている。体内で
ヘモグロビンが作られるのには、ビタミンB₁₂や葉酸
とか、ポルフィリン体の前物質や様ざまの酵素が関与
しているが、とりわけ鉄が必須である。

鉄に関しては、赤血球が壊れると、その中の鉄を
再利用するようにできていて、鉄の体外排出量は少く
て食事からそれ程とらなくても人体でうまく鉄の平衡
が保てるようにはなっている。しかし、胃酸の欠亡や
胃腸薬の常用で鉄の吸収が邪魔されたり、痔などから
の慢性的な少量出血が続くために鉄欠亡が生じる。特
に女子学生では生理による鉄の排出を十分に補う摂取
がないと慢性的な鉄欠亡性貧血におちいり易い。こと
にダイエットとか称して食事制限をしているとなおさ
らである。

鉄が足りないだけなら、ひどくなってから釘でも食べればなんとかなるかと言うと、そう簡単にはいかない点が問題なのである。鉄欠乏性貧血といっても、それほど強い症状が急激に現われないので、じわじわと慢性的に非常に高度な貧血となり易く、そうなるからでは鉄剤に対する反応もにぶるし、注射による鉄剤の補給は副作用が多いので、よほど注意しなければな

らないから、或る日突然に倒れて重大な結果を招かないように転ばぬ先の杖が必要である。

なんとなく身体がだるい、指の爪を軽く押してみても白っぽく、血の色がみられない、あるいは鏡の前でアカンペーをしてみても喉の裏側の赤味が薄いと気付いたらセンターへお出かけください。

===== 新 任 教 官 =====

- 浜谷 正人 教授 (人文学部) 58. 8. 1
昭 43. 3 京都大学大学院文学研究科地理学専攻
修士課程修了
担当：人文地理学 (社会地理学)
- 飯田 敏 助手 (理学部) 58.10. 1
昭 55. 9 大阪大学大学院理学研究科物理学専攻
博士課程後期課程修了
担当：結晶物理学 (X線回折による物
性研究)

- 奥村 謙 講師 (教養部) 58. 5. 1
昭 57. 3 大阪教育大学大学院教育学研究科修士
課程修了
担当：英語 (中世英語)
- 湯川 純幸 講師 (教養部) 58. 5. 16
昭 58. 3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科
修士課程修了
担当：英語 (コミュニケーション論)

私 の 居 住 歴



この八月に山形大学から転勤してまいりました。専門は人文地理学 (集落社会地理学)。早速で恐縮ですが地理学めいたクイズを1つ。日本には47の都道府県がありますが、「山」の字のある県名はいくつあるかご存知でしょうか。答えは6県。

西から山口・岡山・和歌山・富山・山梨・山形です。私、今日まで5府県に住んできましたが「山」のつく県名が3県に及びます。生れは山口県 (防府市) の海岸。海に緑のある漁業・塩業・海運業—いずれも衰退産業ですが—に依存した田舎の村、付近の小宇宙で釣りと水泳に明け暮れて成長しました。学生時代は京都。その後助手として金沢大へ。はじめての雪の下の暮らしで、驚きかつ苦勞しましたが、海が近いのが救いました。長女 (12歳) は金沢の産。その後山形大教養

人文学部教授 浜谷 正人

部に転勤。西も東も山又山、海と魚に縁の浅い生活を10年余り送りました。次女・三女は山形の産。娘三人は山形弁、女房は九州 (福岡) 弁、私は山口弁と家庭では多彩な方言が飛びかっています。富山弁への適応は三女 (6歳) が最も早いようです。

衣裳に三味線ならぬペンと本をもつての旅芸人渡世で、居住歴を語れば自己紹介が済むという身になっていますが、いつの間にか定住の心わく中年 (41歳) となりました。「山のあなたの空遠く幸い住むと人のいう」 (ヘルマン・ヘッセ), そういう気持で富山へまいりました。中年になっての転勤にはデメリットが多く、転勤の功罪、今は判断つきかねますが、数年先には富山に来てよかったと思えるように生きたいと考えています。富山県の風土や県民性、肌に合います。私自身、いまひとつムードにかける人間ですが、勤勉でネアカの性分だと思っていますので。どうか宜しく。

履 歴 書 風

理学部助手 飯 田 敏



履歴風に私事を書き連ねて、自己紹介に変えさせていただきます。

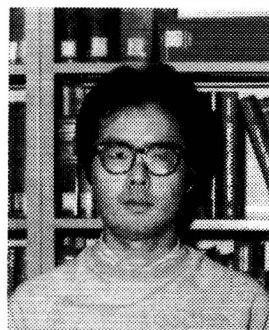
本名はイイダサトシ、男性です。1951年6月9日生れ、本籍地は香川県です。現住所、電話番号等はこれを伏せます。小学校の時よりつい最近まで、大阪府下に住んでまいりました。大阪大学理学部理学科を卒業し、同大学院修了後、大阪大学理学部（教務職員）に1年間務め、この後関西学院大学理学部（実験実習指導補佐）に2年半務め、今年10月1日より、本学理学部（助手）に移って来ました。免許・資格・特技・賞罰等については特記事項ありません。大阪大

学では中性子散乱による金属及び合金の磁性を専攻し、関西学院大学ではX線回折による構造相転移とパルスX線回折装置の開発をやっていた関係上、『得意な学科』はX線及び粒子線散乱による物性物理という事になっています。太りすぎではいますが、健康状態はいたって良好です。趣味は、探鳥、ハイキング、上方落語及び狂言を見る事、雑談をする事等いろいろありますが、いずれもオバサンのものばかりです。スポーツは一切しません。配偶者及び扶養家族もありません。

新しい土地、富山でも研究に一層の努力をする積りではありますが、何分まだ経験も浅いので、皆様の御指導、御鞭撻の程、よろしく願い申し上げます。

新 任 の あ い さ つ

教養部講師 奥 村 譲



大阪にいましたところ、頭に雪をたくさんつけた列車が駅に入ってくるのを見るたびに雪国の生活をあれこれ想像しておりましたが、自分が雪国で生活することになろうとは考えもしませんでした。富山に参りましてから半年が過ぎようとしておりますが、私が心に持っておりました富山の印象、つまり美しいが同時に荒々しい自然の風景とその中に住むおだやかで心やさしい人々という印象は、私の考えていた通りのものでした。

富山で暮らしておりますと、外部からの余計な刺激が少ないため、自分の目がどうしても自分の内側へ向きがちになります。自分が充実した生活を送っていればその生活を維持していくことは容易な町なのですが、そうでなければ富山というところは住みにくい土地に変わってしまうことと思います。その意味で、富山は住む人の生活の仕方しだい良い町にも悪い町にもなる所だと思われまふ。

富山には山と魚という私の好きな物が2つそろっておりますので、できるなら長く住みたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



自己紹介にかえて

教養部講師 湯川 純 幸



九月末の富山国際アマチュア演劇祭初日の夜の部を見た。チェコの劇団のパントマイムとアメリカの劇団によるミュージカルというプログラムだった。参加作品全部を見るひまもないので、英語のヒヤリングのおけいこにもなるかと、アメリカの劇団のやる日を選んだのだ。

自分がこれからどんな芝居を見ようとしているのか、何の予想ももちあわせていなかった。プログラムの解説もその点で情報量の乏しいものだったように思う。チェコの劇団のパントマイムが始まり、スキットが次々と展開されてゆく。最初の二つ、三つのスキットでは誰も笑う者がいなかったが、だんだん「おっかなびっくり」という感じの笑いや拍手が聞こえだし、それが徐々に大きくなるのに一人一人が力を得たように、しまいには皆が人に負けじと大声で笑ったり、拍手したりした。僕は、このパントマイムが客を笑わせておしまいというものなのかどうか半信半疑で、ついていけないでいた。大口を開けて無邪気に笑っているとグサッとやられるのじゃあるまいかという気がして、判断停止の状態でした。一生懸命笑ったり拍手したりしている他の客とのへだたりは大きくなるばかりで、僕は不機嫌かつひがみっぽくなった。何かに対するときのmind setなりorientationとでもいうべきものをこし

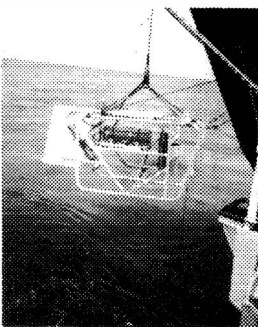
らえもしないで反応を示す（あるいは、それをこんなにアツという間にでっちあげる）ことのできる人たち…ナイーブなのか、したたかで白々しいのか。こんなやつらとは一緒に飲むもんか。スキーもテニスもお断りだ……。

お次はアメリカの黒人グループのひたすら楽しく他愛のないミュージカル。何でこんなものを見るのに、1,200円も払い、一晩つぶしたんだろう。同じ5ドルか6ドル出して、アメリカでは、素人芝居のオニールやワイルダー、ミラー、ウィリアムズなどをよく見た。試験前に勉強をおいて見に行き、成績が悪くても機嫌よくしていた。素人だから下手くそなのは分かっている。他にやるべきことのある素人がそれをおいてやる芝居なら、やる値うちのあるものをやれ…。俳優にうながされて一緒に歌まで歌っている観客に囲まれて、一人ひねくれている。こっちはみなこうなんだろうか。いやこれはこっちの人じゃなくて若い人がこうなんだろうか…。自分がへそまがりであることを再認識させられた一夜だった。

翌日、飲み屋でたまたま見た地元紙の夕刊に「とまどった向きも多かったようだが……笑いと拍手のタイミングだけは遅れてはいなかった」とあった。また後日、僕は件のアメリカのミュージカルが審査の結果最優秀作品に選ばれたことを新聞で知った。

「なつしま」に同乗して

教養部教授 藤井 昭 二



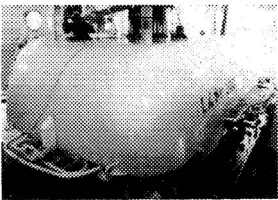
この夏（58年）「しんかい」2000が処女航海で富山湾にきて、富山湾の調査が7月22日から8月16日まで行なわれた。文部省と科学技術庁の話合いがつかず「しんかい」2000に乗船できなかったが8月1日から5日の間母船の「なつしま」に乗船でき、「しんかい」2000の潜水地点の予備調査に参加することができた。

月にロケットが飛び、宇宙衛星が飛ぶ今日、まだ海底のことは余り知られていない。しかし戦後の目指ましい地球科学の革命は海底調査におうことが大きかった。船上からの調査はかなり行なわれたが、数百気圧という水圧のため、実際潜水して調査することはまれであった。ただフランスやアメリカの調査だけが気を吐いていた。それが日本でも自分の国の船で調査できるということは我々を十分に刺激するにたりるべきことである。深海の調査は一般にお金がかかるので余り行なわれていない。余り情報のないところに、急にし

んかい2000をもってきてどの位の仕事ができるであろうかという不安が期待とうら腹にあった。物を見る時、裸眼で見、拡大鏡で見、顕微鏡で見、電子顕微鏡で見。電子顕微鏡自身、大いに有効なものである。

しかし顕微鏡で調べつくしたものを電子顕微鏡で見ることによってその有効性が確かめられ、そうでなかったら何のどこを見ているかわからないことになってくる。しんかい2000は電子顕微鏡的なものである。

富山湾の浅海部は水試の船や淡青丸、漁船で調査したことがあり、潜水艇よみうりで生地沖を見せてもらったりした。1,000 m 以深は海洋研の淡青丸の航海で数点の採泥をしたにすぎない。その時の感触では30秒と手のつけられない冷たい黒泥にゴカイ類がわずかにみつかると不毛の地で、ビニールや木の枝等が気になった。



「なつしま」の調査はしんかいの潜水点の予備調査で、前の例でいえば拡大鏡や顕微鏡による調査に相当する。調査はD. (水深1,000~1,100 m) E. (700~900 m) F₁(500 ~ 600 m) F₂(350~250 m) の4点で行なわれた。最初に地形

図をつくり、ついで水中テレビによる表面の撮影である。まず位置の精度であるが、ロラン航法で定点をきめ、あとは縞模様で船を走らせ、数秒おきに船の位置がプロットされ、これはXYプロッターで5,000分の1精度で別に描かれる。深度は深海精密測深儀で描かれ、またデジタルにプリントされているので容易に等高線を描くことができる。深海底は泥が雪のように降り、雪が深くつもれば高低が殆どなくなり一様に平坦に見えるので、起伏の差はないと考えていたので、1,000 m 海底で3.9 km² の間に比高80 mの差があるのはちょっとした驚きであった。

なつしまで描かれた5千分の1は非常に精確で4分の1に拡大使用しても十分に耐えるものである。

水深千mの世界は前述のように不毛の世界と想像していたが、テレビカメラを海底面から1~2 mの高さで、画面は90 cm × 120 cm、移動速度毎分30 mで見ると、縦横の這いあとと巣穴がみられ採泥で知っていた世界とまるで違っていた。

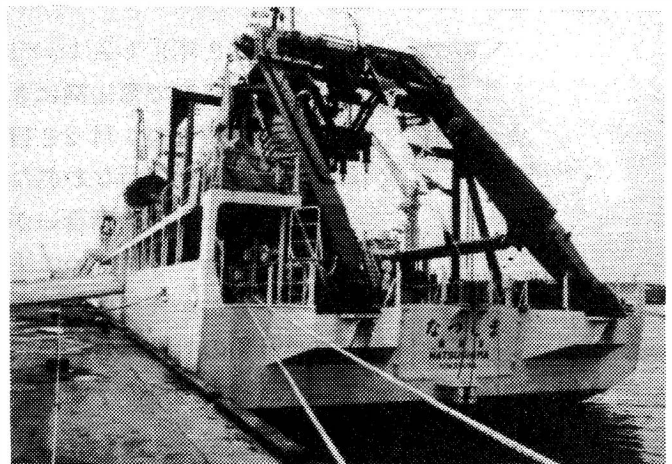
沙漠は水がないが太陽光の十分な世界ですむ生物は限られている。1,000 mの世界は暗黒、100気圧、温度は0度に近い世界である。生物はすくなくて当然であ

ろう。しかし上述したように主はわからないが沢山の生痕があたかもフレッシュの地層の生痕を見るようにしていた。テレビが動くに従ってゲンゲ、エビ、ヒトデ、ベニズワイガニ、イソギンチャクをみることもできた。水深1,000 mでは植物は珪藻以外はほとんどなく、懸濁物補捉者と肉食生物に限定される。しかし、かなりゲンゲやベニズワイガニのいることは、それらが成育できる食物のあることを示している。E地点(水深700~900 m)ではテレビ撮影距離約3.6 kmにベニズワイガニが32匹みられ、D地点(1,000~1,080 m)では3 kmの間にベニズワイガニが290匹を確認することができた。

F₂ 点の浅い所(水深350 m)は神通海底谷で、かなり急傾斜の谷壁がそばまであり、しんかい2000は危険でもぐれないかもしれないが、水中テレビは気軽に底質を写しだした。よくみると、どうみても円礫が泥をかぶっているとしかみれない凹凸がずーっと並んでいた。しんかい2000のマニピレーターでもつかえると一ぺんに問題が解決するのであるが。

「しんかい2000」に乗船できなかったが、予備調査で随分と勉強させていただいた。国は民間ができない深海の技術開発するのは当然のことと思うが。現在の研究段階では容易に水中テレビをどこにでもっていくことができ大陸棚を調べるのに容易にうごいてくれる潜水艇等を整える態勢が必要であろう。

10月に海洋技術センターを訪ねた時、なつしまが調査を終えて母港に帰ったところで、3,000 mの水深で日本海中部地震によって発生したと思われる軟泥にはいった不気味な割れ目や、今流行の中央海峯からの熱水の産物かも知れない金属鉱物や硫黄とおぼしき写真や、黒色泥岩が破壊されたばかりの写真を見ることができ、水中テレビや写真の威力をまざまざとみせつけられた。



荒れ野の向日葵

理学部助手 竹内 章

8月29日から9月2日までカリフォルニア大学のスクリップス海洋研究所を訪れた。国際深海掘削計画によるGlomer Challenger号の第90次研究航海に乗船した研究者13人がそれぞれの研究成果を持ち寄って共同の報告書をまとめるための会合であった。

この航海では南太平洋の6地点で掘削が行われ、コアと呼ばれる径9 cm長さ9.6 mの円柱状試料(深海底堆積物)が多数採取された。ボーリングコアの総延長は今航海だけで4 kmに達するが、その90%以上が炭酸カルシウムの殻をもの微生物(プランクトン)の遺骸からできている。これまでの掘削方法(ロータリーコアリング)では試料が乱されたり、コアの回収率が低かったのであるが、今回はHPCという新しい方法(ハイドロリック・ピストンコアリング)により、それぞれの掘削地点で数百メートルの連続サンプリングに成功し、コアに含まれているおびただしい数の化石が詳しく研究されつつある。私は物理計測によって試料の堆積した年代を検討するために、地球科学教室の同僚である佐伯・酒井両氏とともに、熱ルミネッセンス(TL)や電子スピン共鳴(ESR)などの測定を行った結果を報告した。

G.C.号の母港があるサンディエゴは南カリフォルニアでもメキシコとの国境に近い南国情緒のリゾート地であるが、米国軍太平洋艦隊の重要な基地でもある。そのことの奇妙さは、暗灰色の軍艦が並ぶいちばん隅がわれらが研究船G.C.号の縛られる場所だと聞かされた時により強く実感された。その時この船は大西洋で行動中だったため停泊していなかったのはさびしくもあり、何よりとも思われた。

スクリップス海洋研究所は、サンディエゴ北の郊外ラホヤ地区(La Jollaと書いてこう読むのはラテン系の発音らしい)にあり、海岸に面した丘陵地に建っている。ここには砂浜に臨んだ芝生と売店・水族館と海洋生物学部門のビルがあり、坂道や段階を登っていくと地球物理学部門や深海掘削計画(DSDP)の建物がある。実に地形の起伏変化に富んだ場所がうまく利用されていて、私たちには、高さ100 mを越える海蝕崖のふちにある松林の中の一軒家があてがわれた。ここで私たちは日中ほとんど籠詰め状態になって5日間の

日程を首尾よく消化したのであるが、実のところ「閉じ込められた」という感じが全くしなかったのは、松風しか聞こえない静かさと絶壁の向うに広がる大海原のためであろう。ただ、広い研究所のあちこちを見学して歩く暇がなかったのが残念であった。

DSDPに勤めている人たちは皆親切であった。それだけでなく、タイピストやデザイナーから研究スタッフまでそれぞれが自分たちの仕事に誇りを持って生きいきとしていた。少くとも私の目には、ここの研究員が秘書たちの立てるプラン通りに動いて分担任務を果たしているように映り、それがいかにも楽しそうであった。この雰囲気はG.C.号にも確かにあったと記憶している。このようにひきしまった研究プロジェクトや共同研究に参加したのは私にとって初めてであったので特に印象が深い。それにしても羨しいのは、彼らが昼や夕方之余暇を利用してマリンスポーツが楽しめることだ。G.C.号の海洋技師たちにサーフィンの名手が多いこともここに来てうなづけたのである。

この海洋研究所に隣接してカリフォルニア大学サンディエゴ校(UCSD)がある。若い学生の読者諸君の中には、この大学の名を冠したマイコン言語——UCSD PASCAL——を知っている人も案外いる筈だ。現在、最も多く使われているプログラム言語はBASIC, COBOL, FORTRANなどであるが、さらに改良、工夫された言語にPASCALがあり、「構造化プログラミング言語」として有名である。UCSDのKenneth L. Bowls教授は、ここ数年来めざましく普及してきたパソコンをまさしくパーソナルに(完全に1人で)使い、複雑なデータを対話的に処理することに向いたコンピュータ言語として、UCSD PASCALを開発したのである。UCSDや金沢工大・筑波大学などのように富山大学でも人文・教育学部を含めた全学で、現代人の素養としてこうしたプログラム言語を学ぶ機会が用意されているとよいと思う。

カリフォルニア大学というとすぐアメフトのUCLAだという程、ロサンゼルス校は有名で、日本でもスポーツファッションのブランドにまでなっている。他方最近のUCSDでの学問研究は活発でレベルが高くなっているため入試も難しくなっているようだ。そのアカ

デミズムは下図のようなUCSDの徽章を見ればよくわかる。

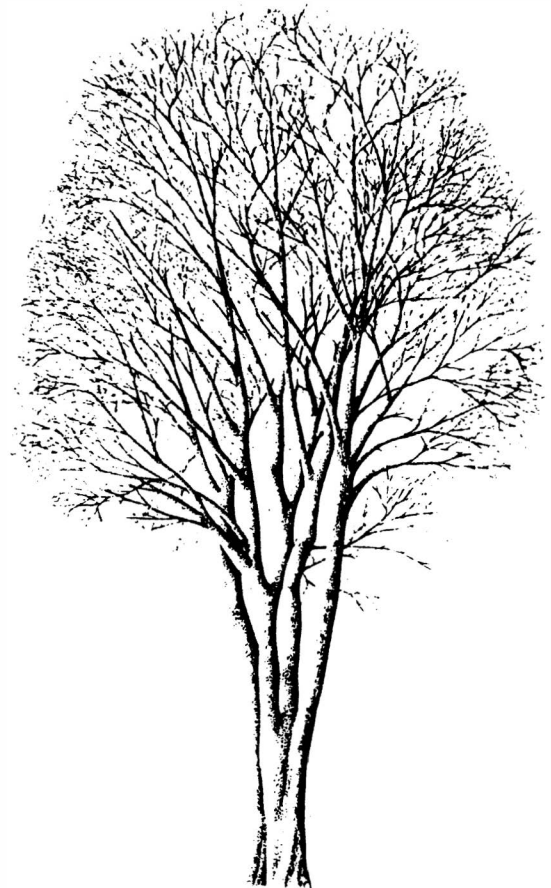


UCSDのキャンパスはスクリップスから続く海岸段丘の上であり、ユニークな建築デザインの図書館や美術館などが備っている。面白いのは、学生へのサービスに関係した建物で、ユーカリの林の中に生協や奨学金の窓口、学務係などがそれぞれ別個に立っているの、まるでバンガロー村のようであった。

9月3日は土曜日であり、会合を終えた13名は思い思いに別れることになった。西独・仏などの外国メ

ンバーは観光に回る人が多かった。私はそれほど余裕のある旅行日程を許されていなかったの、せめてプレート境界として有名なサンアンドレアス断層ぐらいは見て帰ろうと思い、84オリンピックに湧くロサンゼルスやディズニーランドを脇目に炎天下の礫砂漠を走り回った。わかりやすい断層地形を選んで講義用のスライドを撮り、断層露頭を探してTLやESR測定用の断層粘土をサンプリングした後、例によってあわただしく成田に舞い戻ったのである。

風景を眺めても純粋に楽しめずつついっ地質調査のようになってしまうため、ゆっくりと観光旅行もできないのは日本型研究者の悪しき習性かと已れが嫌になってくる。それにしても新鮮な印象として残っているのは、夜を徹して車を駆りモハーベ砂漠を抜けて迎えた朝、あたり一面黄一色であったことだ。日中はみな上を向いて気がつかなかったのだが、荒野一面の向日葵が一斉に朝陽に顔を向けていたのであった。



[Toyama]

Toyama Times

Th. R. Hofmann

When asked to describe my impressions of Toyama, I usually find it difficult to find some aspect in which it is special. After living for 2 years or more in 6 places in Eastern North America, France & Japan, & several months in many other places -- & visiting all of North America, much of Europe, several Chinas & much of Japan, a new place has to be quite special to impress me. Toyama has, for example, some nice mountains, but Grenoble in the French alps has nicer ones. It is said there that every street ends in a mountain, which is far from true, but it does seem that way.

What I like most about Japan is the mountains & the water, especially the ocean. In Japan, the 2 come together making a most beautiful place to live. But in Toyama, the mountains are far away, except for Kure-ha & Joo-yama which are not real mountains, & the sea is far away too. Even the rivers, like Japanese rivers generally are, have very little water most of the time.

Many people say that Toyama is traditional, but after living in Matsu-e & also visiting many small towns, Toyama seems like a big city to me. But when I come back from Oosaka, I find Toyama is indeed a small town. So what is Toyama? I think I understand, now.

The concept of 'Middle America' has become popular -- not the Pacific Coast, not the Old South, not the East, but just plain USA. That is what Toyama seems to me, & how it might present itself: not rural or a small town, but not one of the megapolises on the Pacific side of Japan either; & neither really traditional like Matsu-e nor really modern like the area around Tsukuba University -- just a piece of 'average Japan'.

What impressed me first was the traffic, slow & small-townish, but at off hours, very fast for Japan (due to the straight roads & unpredictable traffic lights). And the drivers are very aggressive for Japan; normal in Paris, but after the politeness of Matsu-e drivers, I was shocked.

Then I was reminded of Canada by the area to the west, around Hon-go: flat, wide open, with straight, wide roads, empty of cars. Most of Canada is like that; only near the west coast are there respectable mountains.

Last, now that I have a delightful house with gardens front & back, I have discovered that Japan has long & delectable springtimes. A typical Canadian spring lasts only a week, with the 1st crocuses pushing up through the snow, & most all the flowers bloomed out 2 weeks later! Chicago's spring lasts a month, perhaps, but spring here seems 3 months long, with new flowers every few days. Wonderful. Besides, I have the rare opportunity (for a foreigner) to live right beside a rice paddy. The spring flooding & autumn harvest bring me closer to nature than I have ever been. Delightful. Toyama has brought me closer to nature, a very pleasant nature, while being 'Middle Japan'.

A few suggestions on how to make Toyama a better place to live, as I am occasionally asked. Of course, everyone has his own pet ideas, & mine are no better than anyone else's, but they are some ideas that might be explored. First, I should very much like to see a system of 'pocket parks', small neighborhood parks the size of a house lot or 2. Not so big, but big enough for children to play, & mothers to meet while looking after their children. Otherwise, Toyama is becoming just a vast collection of houses, buildings & roads -- a concrete jungle. The City should buy up paddy fields remaining in the city before they too disappear into the house builder's trucks.

An other idea is to time the traffic signals so that cars can go only so fast; drivers will not drive 50 Km/hr if it only means that they will have to stop & wait at the next light.

Last, as Toyama is a major centre of medical drugs, she should capitalize on it, to aim at being a major centre for research & development of drugs in Japan if not the world. One step in this direction would be to initiate a continuing exchange with similar centres in China & the US. An other is to get the government to commit its drug-related research to Toyama, & the big drug companies will follow. It is a clean, well-paid industry that will never become obsolete, & can bring many benefits to the city & province.

[1983.11.14]

トマス・ロナルド・ホフマン氏

人文学部英語学担当 外国人教師

西ドイツ・ロイトリンゲン教育大学での留学を終えて

教育学部養護学校教員養成課程 石 倉 充 紀

昭和57年10月1日から昭和58年7月31日までのロイトリンゲンでの10ヶ月間は、本当にあっという間に過ぎてしまいました。と同時に、私にとって忘れられない時間となりました。また、その間に起きた様々なことから、私がこの目で見たもの、この耳で聞いたこと、そしてこの手で触れ、肌で感じたことは、それがどんなにちっぽけなものであろうとも、そのひとつひとつが貴重な経験で、一生持ち続けるであろう私の財産となりました。日本へ帰ってきてからもう3ヶ月が過ぎ、本当に10ヶ月間もドイツで生活していたのだろうか……と今では思ってしまうのですが、目を閉じれば景色が浮かび、耳を澄ませばやはり友だちの声が聞こえてくるような、そんな感じがしています。

むこうの大学では、私の語学力に限界がありましたが、あえて主として、言語障害やからだに障害を持つ子どもの治療とか、遊びを通して、人形を用いて、またリズムに合わせての訓練方法についての講義に参加し、実際に、言語のおくれた子どもの学校での治療や、肢体不自由児のリズム運動訓練等も定期的に行いました。そのような学校での生徒たちとの触れ合いの他に、忘れる事のできない一人の女の子との出会いがありました。その子の名前は Veronika といって、生まれたときに水頭体の状態だったため、手足が思うように動かせず、1人では立つことも歩くこともできません。とても可愛らしく、やさしい子で、私はすぐに彼女を大好きになってしまい、3月の末頃からしばしば、少くとも週に1度はその子を訪ねていたのですが、行く度になんでもいいから話をして仲良くなりたいと思っていました。Veronika の方も、私に対してはいつもニコニコと笑いかけてくれていたのですが、ある時、彼女の母親に「Veronika を車椅子に乗せて」と言われ、いつも彼女の両親がやっているように抱きあげようとする、ふるえながら大声で泣きはじめたのです。そのとき私はどうしたのか理解できませんでしたが、はじめて私に抱かれて車椅子に連れていかれることに不安を感じたのでしょう。「ハイ」と差込んだ私の両腕の中に自分のからだをまかせられないと思い、泣くことでそれを表現したのです。そのあと車椅子を押すことも涙顔で拒まれ、もう彼女とは仲良くなれたと思い込んでいた私は、自分も泣きたくなくなるくらい大きなショックを受けました。

そのような状態がしばらく続きましたが、ある日、私が着物の写真を見せて、おにぎりとすきやきを作っあげ、そして人形を使って日本のことを話してあげたとき、彼女は今までにない笑顔を見せてくれ、彼女もまた人形を手にもって私にいろいろと質問してきたり、また、はじめに見られるのさえいやがっていた訓練一腰から下を強くするために両手だけを支えられた状態で自分の力で腰を浮かすとか、腕に力をつけるために腹這いになって肘だけで動く一にも、それからは真剣に取り組むようになりました。また手の訓練のために私が教えてあげた折り紙や、作ったぬり絵をとて喜び、興味をもってくれたので、よい訓練材料となり、私に対しては訓練の前に後に、自分の学校のことや友だちについて話してくれることも増えました。私と Veronika との会話は、他の人が聞いたらとても滑稽なものだったろうと思います。お互いに相手の言うことがきちんと聞きとれず、意味がくいちがったまま会話をしていることもありました。けれども、私は Veronika のことを本当に好きで、まるで妹のように思っていていつも接していたので、時間はずい分かかったけれど、だんだん私のことを認め、なついてくれるようになりました。指人形を使った人形劇は私以外のひとやらないと決め、車椅子に運ぶときや押すときも不安な様子はなくなり、「Miki」と私の名を呼んでくれたこと……固くなって動かそうとしない足首の訓練のためにプールに通ったときにも、水の中で体を支えてやると私にしがみつきのながらも、指示通りに足を少しずつつ動かしはじめたこと……子どもは正直ですから、はじめの頃の拒否もはっきりと態度で示すかわりに、心を許し、なついてくれたらこちらがとまどうぐらい私の中に入り込んできてくれます。拒否されたときのショックが大きかった分、なついてくれたと分ったときの感激も、思わず泣きたくなる程、からだが震える程、大きなものでした、そういう状態になれたのが、6月のはじめ頃だったのですが、残念なことに7月にはお別れしなくてはなりませんでした。お別れの日、前の夜に千代紙で作った人形をあげて、その家族に「ありがとう」と言うのが精一杯で、Veronika の顔を見て「元気でね」という言葉は、口びるをかんでこらえても、こらえても出てくる涙にさえぎられて言えず、頭をなせてやることしかできませんでした。Veronika は「さ

ようなら”と言ってから泣きながら”別れるのがイヤ”と私に抱きついてきました。この Veronika との出会いから別れまで、何回も何十回も会ったけれど、その一回一回のすべてのでき事が、涙と、あの子を抱きあげた腕に残っている感触と一緒に思い出すことができます。この Veronika との触れ合いを通して、また学校・施設を訪問する事によって、講義だけでは分らない様々な事を見て、学ぶことができ、そしてまた苦勞して理解した講義内容をそこで確かめ、活かすこともできました。

ドイツでは、この Veronika の家族の他にも大学の先生方、そして友だちなど、たくさんの方にお世話になりました。寮にいるときもたくさんの友だちと一緒にだったので、いつも人との接触があり、本当に恵まれ

ていたと思います。とても感謝していたけれど、その気持ちを最後には別れの悲しさに紛れて”ありがとう”の一言でしか表せなかった事が今は心残りです。

昭和57年10月1日から昭和58年7月31日までの10ヶ月間。こんなにもいろいろな事を見て、聞いて、感じたときはありませんでした。そしてこんなにもたくさんの人と知り合えた事ありませんでした。そしてまた、こんなにも”さようなら”をつらく感じ、心から”ありがとう”と思えた事ありませんでした。すばらしい10ヶ月間、ドイツにおける充実した時間を過ごすことができ、たくさんの人達や、すべてのものごとで感謝しています。この経験を、私が自分で感じたこと、得たことを無駄にしないよう、日本の特殊教育に取り組んでいくつもりです。

昭和58年度教員養成課程合宿研修を終えて

実行委員長 得 永 明

私達、教育学部第三年次学生は、野外活動に最低限必要な技術の修得をねらい、今年も富山県有峰青少年の家において、9月6日から8日までの3日間、秋季合宿研修を実施しました。

初日、午前9時30分に教育学部前に集合。学生209名、教職員11名、計220名は、学部長をはじめ、教職員の方々に見送られながら、午前10時にバス8台で出発しました。バスの中ではバス長の指導で、二日目の研修で行うキャンプファイアの歌の練習をしました。有峰林道に入ってから、悪路が続いただけに、眼前に有峰湖が開けた時の眺めは、すばらしいものでした。青少年の家キャンプ場へバスで直行し、入所式、オリエンテーションの後、テント設営に入りました。自分の生活する場は、自分の手で築くという姿勢で、女子も悪戦苦闘しながら、自分達が使用するテントを自力で設営していました。テント設営が終わった後、生活班ごとに野外炊飯を行いました。有峰湖を見渡せるキャンプ場での夕食は、とても楽しく、思い出深きものになりました。

日が沈み、あたりが真暗になった頃、湖のほとりや白樺の木立に囲まれたキャンプ場の思い思いの場所に、生活班ごとに別れて、座談会を行いました。座談会の目的は、教育実習前ということであり、よりよい教育を求めての各自の考えを確立することにあります。

話題は各班に任せられていました。その中には「ど

うして教育学部に入ったのか」とか「女性の立場からの教師としての生き方」など、未来の教師をめざす学生自身の心構えを問う、根本的問題を鋭くついた話しあいをした班もありました。テントで寝たその晩は、海拔1,100mに位置する有峰湖からの風で、テントの中まですっかり冷え込みました。

2日目の研修内容は、キャンプ場での野外炊飯とテント撤収、青少年の家での班別研修とキャンプファイアでした。

朝食を終え、テント撤収後、青少年の家までの6キロの道のりを、防寒着でふくれたリュックサックをかついで歩きました。有峰ダムにさしかかった頃から霧がかかり出し、有峰湖を一望に見渡せるはずの展望所に登りついた時には、有峰湖はすっぽりと濃い霧で包まれていました。ほぼ全員が青少年の家に到着した頃霧は雨にかわり、午後からの班別研修の内容は、屋内用に変更せざるを得なくなりました。班別研修は生活班で行い、その内容は屋内のゲーム指導の紹介、割り箸鉄砲やゴミ袋を使ったパラシュートの製作、折り紙、スケッチでした。これは班で企画し、研修を行うというものだったので、各班とも積極的に参加していました。

雨は夜にはあがり、あかあかと燃え上がるキャンプファイアの炎を囲んでのセレモニー、そしてフォークダンスと、楽しい時を過ごすことができました。

三日目、最終日の研修は、オリエンテーリングと合宿研修全般についての反省会でした。

オリエンテーリングについての説明を青少年の家の職員の方から受けた後、3,4人でグループをつくり、地図、コンパスを片手に青少年の家を出発しました。制限時間まであと僅かになると、どここのグループも必死に残りのポストを探していました。汗びっしょりになりながら、走っている友達の顔、そして、ポストを見つけた時のホッとした笑顔が強く印象に残っています。

午後からの反省会は、三日間を振り返り、分科会形式で行いました。来年の合宿研修を意識した建設的な意見も出され、うちとけた雰囲気の中にも厳しさのある充実した反省会だったと思います。

有峰林道の舗装工事の関係で、退所までに時間があつたので、二日目の班別研修で行ったゲーム紹介があり、アブラハムの踊りで集会室は笑いに包まれました。一人一人の笑顔には、普段、話しあう機会が少なかった者同志が生活を共にし、三日間の研修を各自、責任

を持ってやり遂げた充実感があらわれていたと思います。

退所式では、二日目から参加された学部長から、講評を頂き、青少年の家の方からは、将来こども達に集団生活を指導する場合の教師の心構えについてと、暖かいおことばを頂きました。

数多くの反省点を残しながらも、こうして合宿研修をつつがなく終えることができました。

この合宿研修は、学生が主体となって企画立案し、組織づくりや運営を行ってきました。合宿研修の日程を円滑に進めることができたのも、参加学生一人一人が事前に分担された自分の役割を十分に理解し、積極的に研修に臨んだ態度からくるものだと思います。

最後に、企画立案から実行段階まで御指導下さった教官職員の方々に、御礼を申し上げます。今後、合宿研修で得た貴重な体験を生かして、さらに将来の教師生活に必要な資質を養っていききたいと思います。

◇ 教育実習の一面

教育学部長 大澤 欽 治

1. はじめに

教育学部では、学生が大学における講義をとおして得た学習成果を有機的に活かし、将来にわたり、研究を裏づけとした教育実践を深め、教師の専門的資質を高めていくことのできる必要な基礎を培うことを重視している。

こうした観点から行われる教育実習には、通例、大学における事前指導、附属学校・園等で展開される事中指導、大学側での事後指導があるが、これらの事前・事中・事後指導について、実習目的に即した一貫性が要請されているばかりでなく、近年とくに教科指導のみならず、学級経営や生徒指導等をも含めた実習が求められている。また主免と副免をあわせ取得する場合の取扱いをめぐる問題も指摘されている。

2. 新たな協力校、実習校の設置

教育実習に関する附属学校・園の役割は明確ではあるが、実習生受け入れ能力の制約もあり、すでに小学校教員養成課程の学生について、副免（中学校教員免許）取得のための実習を13に及ぶ地方教育実習協力校（公立中学校）で実施してきている。これに対して、中学校教員養成課程及び幼稚園教員養成課程の学生で

副免（小学校教員免許）を取得しようとする者の実習は、附属小学校と富山市立堀川小学校で行われ、実施上検討すべき余地があった。

このため県教委並びに関係地教委の深い理解を得、今年度から、県東部では滑川市立寺家小学校、同西部においては大門町立大門小学校を上記副免取得のための地方教育実習協力校として位置づける措置を講じ、これにより小学校教員養成課程の主免取得並びに養護学校教員養成課程の基礎免許取得にかかる実習は、附属小学校及び堀川小学校でのみ行われることとなり、その円滑な運営を期待できることとなった。同時に、大正4年富山師範学校附属小学校代用、同6年富山女子師範学校附属小学校代用、昭和24年富山大学教育学部協力校としての役割を担ってきた堀川小学校を教育学部実習校とする所要の手続きをとった。関係の方々に心から感謝申しあげたい。

なお、今年度における事前指導にあたっては、教育実践研究指導センターの機器等を活用し、具体的実証的で臨場感を伴う展開となるよう配慮し、その内容構成にも工夫を加えた。

3. 結 び

今年6月15日、教員養成審議会に対し文部大臣が、わが国の教育発展には優れた教員を確保し、その資質能力の絶えざる向上を図ることが必要であるとして、教職に関する専門科目について必修科目の区分及び単位数の改善、さらに専門科目のうち教育実習について

修得することを必要とする最低単位数を引き上げるとともに、その履修内容・方法を多様化、弾力化するなどの改善を図ることを諮問した。こうした動向や今後の推移を見守りながら、教員養成にあたる本学部の使命達成に一層意を用いて参りたいと考えている。

教 育 実 習 に つ い て

本年度の教育実習を実施するにあたって、前年度の反省をもとにして、実習内容・方法等を改善するために年度当初、学部教官と実習校代表による教育実習内容検討委員会が開かれた。

その結果、実習校（附属小・堀川小）においては小学校課程（必修）の学生を対象に附属小と堀川小でそれぞれ半数ずつ行い、三年次と四年次では実習校を交代して実施する。幼稚園課程及び中学校課程の学生で小学校教員の免許取得希望者（選択）については、新たに実習協力校として、呉東で滑川市立寺家小学校、呉西で大門町立大門小学校に依頼して実施することが確認された。

これらの改善は教育実習の効率を高めることと、一教室当り配当の学生を附属小では5～6名、堀川小では2～4名にすることによって、それぞれの実習形態のよさを活かし、将来への研修方法の確立を目指したことである。従来3年次（必修）と4年次（選択）を同時に実施して、実習内容についても特別考慮されて

教育学部附属小学校教育実習部

いなかったものが、協力校の新設によって実習経験に応じた効率的指導が可能となったという点である。

そこで、今年度の実習概要を記すと、前期（9月5日から24日）は、4年次小学校課程の学生（145名）を対象に本校（73名）と堀川小（72名）でそれぞれ行った。後期（9月28日から10月18日）は3年次小学校課程（145名）と養護課程一類（16名）必修の学生を対象に本校（72名）と堀川小（89名）で行い、4年次幼稚園課程（26名）と中学校課程（41名）選択の学生については、寺家小学校（34名）と大門小学校（33名）で行った。

この教育実習は2カ年間で4単位実施することになっており、3年次では基本実習、4年次では応用学習という形で、小学校教員となるための各教科、道徳の学習指導の実際から学級経営、特別活動の指導にいたるまでの実務経験を通して、児童を指導するために必要な専門的知識、技能を習得し、教職志望者としての自覚と意欲を高めさせるものである。

教 育 実 習 に つ い て

教育学部附属中学校教育実習部

4年次学生は夏休みともなると、9月5日から9月26日まで15.5日間行われる教育実習についての構想も深まる頃だと思う。

3年次は7.5日間教壇に立ち、生徒と直面して得た体験から、「生徒の意識をいかにとらえるか。」「生徒にどのように課題をもたせたらよいか。」「主体的な生徒の生活というのはどのようなものだろうか。」「評価はどのようにしたらよいのだろうか。」等さまざまな課題を持ったことと思う。教える立場から受け身の立場になって、これらの課題を見直すことができたという点で、3年次の実習の意義は大きいと思う。さらにそれぞれの教科を通して、生徒の人間性を育てることの

厳しさなど、共通の課題をもち学生間の横の連携が強くなり、4年次学生との縦の関係と共に、つながりの輪が立体的になってきたことは、実習によるさらに大きな意義だと思う。

4年次の実習では、教科はもとより道徳・学活も含めて、研究授業の形で提案し、国数音美英のAグループと社理技家保体のBグループや学年別に分かれ、多様な角度から、討論し研修を深めることは教科のわくにとどまらず人間形成の面から教科の指導を見なおすよいきっかけになると思う。

学校行事や部・クラブ活動などあらゆる活動に積極的に参加し、生徒の生の姿をとらえるよい機会だと思

う。

4年次学生の実習を終えての感想に「研究授業に決ってからは、そのプレッシャーとたたかう毎日だった。しかし、研究授業は大変だったが得ることが多かった。」「部活に参加することにより、担当学年以外の生徒と

の接触がもて、共に汗を流した生徒達と心が通い合った。」「人間の価値は内から湧き出てくるものだと感じた。」等前向きなとらえ方が多く、教育現場に立ったら若いエネルギーを子どもたちのために燃焼されるものと期待している。

附属養護学校の教育実習を終えて

教育学部附属養護学校教育実習部

本年度附属養護学校の教育実習は、9月5日より10月18日の6週間、前半と後半に分けて行われた。前半は、養護課程の4年次生19名が基礎実習として3週間行い、後半は、それらの養護課程生に、幼稚園および小学校課程の4年次選択生3名を加えた21名で行った。

今年は、実習に先立つ9月1日・2日の両日、事前指導を行った。これは、従来より校内で短時間に行ってきたものを、教育実践研究指導センターが中心となり企画されたもので、実習生にとって時間的ゆとりがあり、教育現場からの講義としてかなり効果的であった。

附属養護学校での教育実習は、前年3年次に小学校又は中学校で教育実習を3週間経験してきたが、実習生にとっては、かなり困難なようであった。児童生徒数が少ないのだが、言葉がない、異常行動がある、知的遅れが著しいなど能力差や個人差の大きさに困惑し、教科書なしの授業計画立案は、理論的には大学で学習してきたはずであったが、実習生は不安がっ

た。しかし、本校教官の熱心な指導と実習生の若さとバイタリティーで、連日夜遅くまで授業の事後検討や指導案作成・教材・教具づくりにと励んでいた。

本校では、授業実践を教育実習の基盤と考え、日々の授業観察と授業担当を重視しながら、前半では、教官の示範授業と授業研究会、3年次への授業公開（略案作成）、そして前半公開授業（小・中・高各学部で授業案を共同立案し、学部代表が授業）を経験し、後半では、実習生全員が教育実習のまとめとして後半公開授業を行った。

6週間の継続した教育実習の中で、実習生は、実態把握や教材研究の困難性を体験しつつも、教育の原点といわれる特殊教育のあり方を体得したようである。

教育実習は、卒業後直ちに一人前の教師として教壇に立つ教師の実践的資質の養成である。大学教官との連携を密にし、指導助言を得ながら一層充実した教育実習になるよう努めたいものである。今年は、多数の大学教官や教育委員会からの来校があり、教育実習の責務の重大さを痛感している。

幼稚園教育実習について

教育学部附属幼稚園教育実習部

教育実習は、大学において習得した教育理論に基づいて教育を具体的に体験し、実験的研究を通して、望ましい教師としての人格と教育的な職能を履習することを目的として行う。

今年度は、4年次29名が9月6日から9月26日までの14.5日間、3年次30名と小学校課程1名にブラジルからの聴講生1名が9月28日から10月18日までの15.5日間それぞれ行った。

本園は、3才児クラス1学級、4才児クラス2学級、5才児クラス2学級の5学級編成であるが、1学級当り3～4名の実習生の受け入れが理想である。従って、学生全員を同時に受け入れるには無理があるので半数

を公・私立の協力園にお願いし、2ヶ年で一度は本園で実習が行えるようにしている。

3年次は、初めて幼児と実際にふれ合うので、まず幼児をよく観察し、幼児理解を深めること、教師の仕事の全体について理解を図ること、保育の一部を担当し、教材研究→指導計画の立案→指導→反省評価を通して大学において習得した教育理論を具体的に体験し、教育理念を深めることなどを重視する。4年次では、あらかじめ自己課題をもって臨む声が多い。幼児の姿、望ましい活動や環境、指導法について具体的な場面をとりあげて考察・反省協議を行い、教師として幼児を指導するのに必要な専門的知識や指導技術を修得し、

教師としての使命感をもつことを重視している。

教生が一番苦勞するのは、絶えず躍動している個々の幼児を個々の興味・欲求に応じて指導する方法のむずかしさである。一つの容器に全員を一度に入れようとせず、もっと多面的にとりくめる指導方法の工夫が必要だと思われる。

毎日の実習の反省協議に熱が入り、日ごとに指導計画の立案と教材準備に時間をかけてとりくみ、帰宅時

間をうながすこともしばしばである熱心さであった。この体験が担任や教生間のつながりを親密にしている。

お別れ会の日には、劇やゲームをして幼児も教生も楽しい思いにひたる。そこに、人の心を動かす子供の偉大な力に涙を浮かべて感動し、幼児教育にささげる思いをあらたに抱く姿をみる。この思いを大切に今後ともとりくんでいってほしいと願っている。

製鉄所の思い出

工学部金属工学科金属材料学講座留学生 葉 英 華

私は1979年9月に中国鋼鉄会社に入社して、1983年2月に留学のために会社のエンジニアを辞めた。わずか3年半の在職期間中に鉄鋼業の好況と鉄冷えの苦しい局面の両方とも親しく経験した。この転換期を乗り切るため、スタッフたちはどのような対策を打ち出し、管理者たちは如何に決裁したか、また社員全員がどのように努力を払ったかを振り返ると、7,600社員の一人であった私にとって、貴重な人生体験をしたことは疑いないことである。来日後の勉学の余暇に、時々当時の物事が心に浮んで来る。

中国鋼鉄会社は台湾南部の高雄市にあり、中華民国の十大建設の一つである。新日鉄の大分製鉄所に次いで、世界第2の100%連続鑄造を行なう臨海製鉄所である。基本設計から操業指導にいたるまで、U・S・スチールの技術協力によって、1977年8月に生産がスタートした。

国営企業に属するが、実際に社員たちは公務員の身分を持たない。経営・管理方面はほとんど私営企業に似ている。特に、当月の経営利益の一部を各部門の成績によって配分して、社員のさ来月のボーナスとする制度はわが国が最初であり、またIEの導入・部門評価制度を遂行したことは全社の優良な風気を養える主因といえるだろう。

わが国の建設はどんどん進み、鉄鋼の需要量も増え、好況に乗った中国鋼鉄会社はわが国国営企業の中で最も良い成績を上げた。そして中鋼マン（中国鋼鉄会社社員）はプライドを心底に持ちながら、地道に働いた。

1981年始めに、不況の陰影もわが社に波及して、ついに赤字が出るようになった。部門別の管理者懇談会を開いて、私のような最低位の作業長も参加した。主催者である会長の話しを拝聴して、環境の厳しさを

つくづく感じたのであった。不幸にも7月に第2回の懇談会が開かれ、作業員まで集められた。会長は難関に言及した外、具体的な行動も希望された。これら2回の懇談内容はまだ私の手帳に残っている。

1981年2月、1年半に互る3交代の作業長の生活を終え、スタッフに就任以来、ちょうど好況から不況への転換期に達したことから、直面した多くの問題の解決と前任先輩との考え方の違いがしだいに現われた。新米として、勤務時間以内に仕事を完了することはなかなかできなかった。高雄市の年平均温度は25℃、午後5時退勤後は冷房も止まり、残業する人は扇風機を使わざるを得なかった。幸いに狭い事務室に、他の業務を担当する先輩と一緒に残業した時などは、いろいろ教をいただける良いチャンスと思って、よく話し合い、しだいに苦勞も感じなくなった。苦しい中での楽しい思い出の一つである。残念なことに、7月末事務室は移転により、面積を8倍に増大した後、あの温かい雰囲気もすっかりなくなってしまった。

毎月のボーナスはだんだん少なくなって、1981年末ついにボーナスはゼロになった。

私の仕事に及ぼす不況の直接の影響は、製品ストックの増加に伴い、鑄の問題とヤード管理の困難さに現われた。またオーダー・エントリーを審査した場合にも、複雑な外国の規格と需要家規格がどんどん増えてきた。注文された製品の品種は多種多様となり、生産調整も困難になった。このようなことから雑務が急激に増えた。

会社にとって、直面した難題の中で、最も深刻なのは原料・予備品・消耗品などを海外から購入しなければならぬことであり、コストの半分以上を占めてしまったことである。コストダウンの障害を除去する

ため、国内工業を援助し、共同研究開発の計画を推進した。今この成果がしだいに現われつつある。

去年12月に、スタッフたちから提出された会社の財務状況と各プロセスの工程能力の再検討に基づいて、管理者は「歩留り2%アップ」の目標をかかげた。そして第一線の人たちのヘルメットの上に上記のような標語のラベルが貼られた。このような限界ぎりぎりの

水準に挑むのは大きな試練であろう。

景気回復の曙光がまだ見いだされない時に、私は日本にきた。職場の経験を活かして、企業と同様に個人の体質を鍛練することを怠けてはいけないと思う今日此頃である。

(1983年4月来日)

~~~~~ 学 部 だ よ り ~~~~~

● 人文学部だより

◇ 昭和58年度国語学会開かれる

10月21日から23日までの3日間、昭和58年度国語学会全国大会が富山大学を会場に開催され、全国から国語学者400名程集まり盛会でした。

21日は、日本方言研究会、訓点語学会、一型アクセント研究会が開かれ、22日は公開講演会で都竹通年雄(富山大教授)、森岡健二(上智大教授)の両先生がそ

れぞれ「文法研究を考え直す」「文法論の構想」と題して講演されました。23日は各研究発表が行われました。

学会を滞りなく終えられたのも、人文・教育・教養及び全学各関係者の方々の協力を得られたことによります。記して謝意を表します。

● 教育学部だより

◇ 続附属教育実践研究指導センター(CRTTE)その後

センター長事務取扱 大澤 欽 治 (教育学部長)

6月の開所式以来、センターの利用者も増えて、Forumのような教育研究の広場としての役割を次第に果たしつつある今日である。初年度の設備充実が図られた授業実践研究室では、教材研究の授業、各種の講演会、教育実習事前指導等、その視聴覚機器を十分活用しての教育や指導が行なわれている。

58年度設備計画

6月・7月の運営委員会で、58年度設備計画について慎重に討議された。その結果、先に示した(学園ニュース42号)センターの教育情報データベース構想を実現するべく、パーソナルコンピュータによるローカルネットワークシステムの導入が決定された。

ますます進展してくる情報社会の中で、教育実践研究を行うにあたって、本システムはその中核となることが期待される。

一方、ビデオライブラリーを利用する個別学習シス

テムの導入も決定された。教育実践研究では、専門教科に関するビデオ、教科教育研究のための種々のビデオ教材が活用されてきている。センターでは、これまでに貯えられてきたこれらの貴重なビデオ教材をビデオライブラリーとして管理し、いつでもだれでも気軽に視聴できるようにしようと計画している。

これら2つのシステムについては、現在、機種の設定も終り、58年度末までに実現の運びである。

オンライン情報検索システム-DIALOGを導入

センターでは、教育実践研究に欠かせない各種の文献・資料をいつでも迅速に検索入手できるようにとの配慮かつ、通信回線を利用したオンライン検索システムを完備している。これまでは、日本科学技術情報センターのJOISの利用が可能であったが、この程11月1日より、米国ロッキード社のデータベースDIALOGが利用できるようになった。

DIALOGは、理工学、医学などの科学技術情報のもとより、美術、哲学、歴史、経済、政治、マスメディアなど人文科学、社会科学関係の情報を含む約170種のデータベースから成り、世界最大のオンライン情報検索システムであり、本システムの導入により、国内外の文献資料の検索がより一層充実したものとなった。教育実践研究への活用を多いに期待している。

Forum 活用の現況

最初にも述べたように当センターの教育研究のForumとしての役割が次第に高まり、授業研究以外にも種々活用されてきているので、以下に主なものを掲げ、その現況を記しておく。

・5月21日 CAL研究会主催による講演会「子供の夢を実現するコンピュータ言語LOGDを使った教育の可能性」

・6月24日 電子通信学会主催「医用電子生体工学研究会」

・6月29日 教育懇談会「センターにおける情報検索システムについて」

・7月6日 「教育実習改善」に関する研究会

・7月9日 「教育実習事中指導の開発ならびに事前事後指導の追跡研究」に関する北陸三大学共同研究会

・9月1日～2日 教育実習事前指導（小・中・養護各教員養成課程対象）

・9月19日～20日 教育実習事前指導（幼稚園教員養成課程対象）

・9月29日～10月1日 国立大学教育工学センター協議会（三重大学教育学部にて）へ参加

・10月19日 教育懇談会「ブルーム博士の落ちこぼしのない教育の方策について」

◇ 日本教科教育学会第9回全国大会富山大会を終わって

教育学部教授 林 良 重

去る5月21日、22日に日本教科教育学会第9回年会が本学で開催されました。本学会は、教科教育の研究を進めることを目的としていますが、会員数は現在約800名です。本年会では、約60件の発表があり、さらに「教科教育とは何か」というパネルディスカッ

ションがありました。参加者は約300名でした。

本学会は、研究発表会、学術講演会の開催、学会誌および学術図書の刊行、教科教育に関する研究・調査などの事業を行なっています。事務所は福山市東村町三蔵985福山大学内にあります。

~~~~~ 保健管理センターだより ~~~~~

カウンセラー 高 尾 テルノ

● 学生生活について

皆さんは、期待と不安を胸に抱きながら入学して、半年、あるいは2年3年と経った現在、学生生活についてどのように考えていますか。また自己をどのように見つめていますか。

富大生200余名の「学生生活について」のレポートや870余名のアンケート調査結果を参考にしながら、みなさんの友達が学生生活についてどのように考え、感じているかを、いくつかの例を羅列してみたいと思います。

<不 安>

- ・学校と学生を繋ぐものは、掲示板だけだということにすごく不安を感じる。
- ・今、何よりも不安なのは、自分は取返えしのつか

ない時間と精力を浪費しているのではなかろうかと。

- ・目的意識を持たない今の生活を考えると少し不安である。
- ・自由時間がありすぎて、どう時間を費せばよいか分らない。

<焦 り>

- ・物事に対して真剣に考えたり、話し合ったりすることがなく、自分の意見もなく、ただ人の意見に従っているだけである。
- ・没頭する何かが見つからない、いや見つけようとしていない自分～。
- ・何かをやり遂げようということもなく、また自分を律することも出来ず、ただ漠然と時間を過ごしている。
- ・今までの期待や不安はどこかへ消えて諦めと慣れと

言葉しか残っていない現在～。

- 精神的焦りがひどい、この焦りを解決するキッカケというものを見つきたい。

などといった学生生活について不安を抱いている人、また、自己について焦りを持っている人など数多くいます。昭和56,57年度のアンケート結果を見ても、学生生活について、何らかの不安、心配ごと、悩みを持っている人は、85%もいました。

学生相談室に来談する人の中には、打ち込むものがなく、エネルギーを発散させる場所や機会の少ないことを訴えています。

青春のエネルギーを発散させる課外活動（クラブ・サークル・同好会）を例にとってみても、途中でやめた人や未加入の人がひどく悩んでいる割合が多いようです。勿論、加入者も悩みをもっており、センターに来所しています。

学生生活を考える時、学生生活＝課外活動、といわれる位、学生たちの多くは、課外活動を抜きにしては学生生活について考えられず、語ることが出来ないという。大学生活が満足なのは、何よりも課外活動があるからだともいう。

課外活動の加入者の学生生活についての感想のいくつかを挙げてみますと

- 仲間が出来、学生生活の楽しさを味わうことが出来、その上、先輩たちのいろいろな意見に触れることが出来た。
- サークルによって救われた。もし入部していなかったら今頃きっと学校に行く気もなくなっていただろう。
- サークルの一員であるということが、学生生活を充

● 合宿セミナーについて（予定）

今年度は、他大学との合同合宿セミナーを計画いたしました。

他大学生とのコミュニケーションの場として、また

実したものになった。

- サークルが学生生活の大きな部分を占め、自分にとって充実した生活空間の一つでもある。
- 自分を見つめることが出来た、サークルのみんなのお陰で中途半端であった自分の心を変えた。やる気があればやれるという自信がついた。
- 大学生活4年間で得たものは、クラブ活動から団体生活を通じて、いろいろな考えを吸収した。そして自分なりに真剣に考える場を持つことが出来た。
- サークルでの疲労と満足感、そして目標を征服した時の喜び、嬉しさなど感動を味わうことが出来た。など、課外活動は、学生生活の中で大きな位置を占めているようです。

何か打ち込むもの、熱中することの出来るものを持っている、あるいは目標を持っているということは、一日一日の生活を充実させ、それが後には生き甲斐となる人もいるでしょう。

いずれにせよ、自己の性格や能力に応じて、正課教育、課外活動、その他の日常生活をバランス良く、リズム的に働きかけることが大切かと思われれます。

また、大学生活の間には、その理由によっては、留年、休学があってもよいのではないのでしょうか（勧めるつもりはないが）自己を発見する期間として、また自分で「これだ！」と思うところがあったらそれでよいのではないのでしょうか。

小さな目標から、大きな目標へと努力を惜しまず、小さな目標には期限をつけるのも一方法かと思われれます。期限あってこそエネルギーは達成日に向って集中していきます。お互に素朴さと自然の心をもって、人間の生き方について考えてみようではありませんか。

自己を見出す良い機会だと思いますので、関心のある方は、是非参加してください。

文部省からの予算が付き次第お知らせいたします。



~~~~~ 学 生 部 だ よ り ~~~~~

◇第35回北陸地区国立大学体育大会 団体成績一覧表

| 種        | 目           | 優 勝 杯                 | 1 位       | 2 位      | 3 位      | 4 位 | 5 位 |   |
|----------|-------------|-----------------------|-----------|----------|----------|-----|-----|---|
| 男        | 陸上競技        | 金沢大学長杯                | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | 福医  |   |
|          | 野球          | 富山大学長杯                | 金沢        | 福井       | 富山       | /   | /   |   |
|          | 庭球          | 富山県体育協会長杯             | 金沢        | 富医       | 富山       | 福井  | /   |   |
|          | 軟式庭球        | 石川県知事杯                | 富山        | 金沢       | 福井       | 富医  | /   |   |
|          | 卓球          | 金沢市長杯                 | 富山        | 福井       | 金沢       | 富医  | 福医  |   |
|          | バドミントン      | 福井市長杯                 | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | /   |   |
|          | バレーボール      | 福井県知事杯                | 金沢        | 富山       | 富医       | 福井  | 福医  |   |
|          | サッカー        | 石川県知事杯                | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | /   |   |
|          | ラグビー・フットボール | 富山県知事杯                | 金沢        | 富山       | 福井       | /   | /   |   |
|          | 剣道          | 福井県議会議長杯              | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | 福医  |   |
|          | 柔道          | 富山県議会議長杯              | 金沢        | 福井       | 富山       | 富医  | /   |   |
|          | バスケットボール    | 福井大学長杯                | 金沢        | 富山       | 福井<br>富医 |     | 福医  |   |
|          | 水泳          | 福井大学学生部長杯<br>金沢市議会議長杯 | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | 福医  |   |
|          | ヨット         | 石川県議会議長杯              | 富山        | 金沢       | 福井       | 富医  | /   |   |
| 子        | 準硬式野球       | 福井大学父兄後援会杯            | 金沢        | 福医       | 富山<br>富医 |     | 福井  |   |
|          | ハンドボール      | 金沢大学長杯                | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | /   |   |
|          | 空手道         | 福井市長杯                 | 金沢        | 福医       | 福井       | 富医  | 富山  |   |
|          | 弓道          | 富山大学長杯                | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | /   |   |
|          | 体操          | 福井市議会議長杯              | 金沢        | 福井       | /        | /   | /   |   |
|          | 自動車         | 金沢大学長杯                | 富山        | 金沢       | 福井       | /   | /   |   |
|          | 女           | 陸上競技                  | 富山県体育協会長杯 | 金沢       | 富山       | 福井  | /   | / |
|          |             | 庭球                    | 石川県議会議長杯  | 金沢       | 福井       | 富山  | 富医  | / |
|          |             | 軟式庭球                  | 福井県体育協会長杯 | 福井       | 富山       | 金沢  | 富医  | / |
|          |             | 卓球                    | 石川県体育協会長杯 | 金沢       | 富山       | 福井  | 富医  | / |
| バドミントン   |             | 福井県教育委員会杯             | 金沢        | 福井       | 富山       | 富医  | /   |   |
| バレーボール   |             | 富山大学後援会長杯             | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | /   |   |
| 剣道       |             |                       | 金沢        | 富山       | 福井       | 富医  | 福医  |   |
| バスケットボール |             | 富山市議会議長杯              | 金沢        | 福井       | 富山       | 富医  | /   |   |
| ソフトボール   |             | 井村杯・北信杯ソフトボール協会旗      | -         | -        | -        | -   | -   |   |
| 弓道       |             |                       | 金沢        | 福井       | 富山       | 富医  | /   |   |
| 水泳       | 福井大学長杯      | 金沢                    | 富山        | 福井<br>富医 | /        | /   |     |   |

◇ 第33回 北陸三県大学学生

交歓芸術祭日程表

昭和58年10月22日～11月27日

| 期日<br>部門別 | 10月        |            | 11月         |           |                     |            |            |            |            |            |            |            |            |
|-----------|------------|------------|-------------|-----------|---------------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|
|           | 22日<br>(土) | 23日<br>(日) | 5日<br>(土)   | 6日<br>(日) | 12日<br>(土)          | 13日<br>(日) | 18日<br>(金) | 19日<br>(土) | 20日<br>(日) | 23日<br>(水) | 25日<br>(金) | 26日<br>(土) | 27日<br>(日) |
| 管弦楽       |            |            |             |           |                     |            |            | 県民<br>会館   | 医師<br>会館   |            |            |            |            |
| 軽音楽       |            |            |             |           |                     |            |            |            |            | 福祉<br>会館   |            |            |            |
| 邦楽        | 福祉<br>会館   | 福井<br>大学   |             |           |                     |            |            |            |            |            |            |            |            |
| 合唱        |            |            | 福井大学<br>体育館 |           |                     |            |            |            |            |            |            |            |            |
| 美術        |            |            |             |           |                     |            | 福祉会館       |            |            |            |            |            |            |
| 写真        |            |            |             |           | ショッピング<br>シテイ<br>ベル |            |            |            |            |            |            |            |            |
| 放送        |            |            |             |           |                     |            | 光明寺        |            |            |            |            |            |            |
| 書道        |            |            |             |           |                     |            |            |            |            |            | 福祉会館       |            |            |
| 茶道        |            |            |             |           |                     |            |            |            |            |            | 市内寺院       |            |            |

## ◇ 昭和 58 年度後学期専門移行者調

( 58.10.1付)

| 学部     | 学科         | 入学年度 | 専門教育課程移行者数 |    |    |    | 移行不許可者数 | 移行対象者数 |     |       |
|--------|------------|------|------------|----|----|----|---------|--------|-----|-------|
|        |            |      | 52         | 53 | 54 | 55 |         |        | 56  | 57    |
| 人<br>文 | 人文学科       |      |            |    | 1  | 2  | 81      | 12     | 96  |       |
|        | 語学文科学科     |      |            |    |    | 3  | 68      | 13     | 84  |       |
|        | 計          |      |            |    | 1  | 5  | 149     | 25     | 180 |       |
| 教<br>育 | 小学校教員養成課程  |      |            |    |    |    | 137     | 3      | 140 |       |
|        | 中学校教員養成課程  |      |            |    |    |    | 45      | 8      | 53  |       |
|        | 養護学校教員養成課程 |      |            |    |    |    | 20      | 1      | 21  |       |
|        | 幼稚園教員養成課程  |      |            |    |    |    | 29      |        | 29  |       |
|        | 計          |      |            |    |    |    | 231     | 12     | 243 |       |
| 経<br>済 | 経済学科       |      |            |    |    | 3  | 86      | 34     | 123 |       |
|        | 経営学科       |      |            | 1  |    | 2  | 92      | 32     | 127 |       |
|        | 経営法学科      |      |            | 1  | 2  | 3  | 51      | 13     | 70  |       |
|        | 計          |      |            | 2  | 2  | 8  | 229     | 79     | 320 |       |
| 理      | 数学科        |      |            | 1  |    |    | 31      | 11     | 43  |       |
|        | 物理学科       |      |            | 1  | 1  | 2  | 23      | 23     | 50  |       |
|        | 化学科        |      |            |    |    | 1  | 33      | 9      | 43  |       |
|        | 生物学科       |      |            |    |    | 2  | 21      | 12     | 35  |       |
|        | 地球科学科      |      |            |    |    | 3  | 19      | 17     | 39  |       |
|        | 計          |      |            | 2  | 1  | 8  | 127     | 72     | 210 |       |
| 工      | 電気工学科      |      |            |    |    | 4  | 37      | 15     | 56  |       |
|        | 工業化学科      |      |            |    | 1  | 1  | 31      | 17     | 50  |       |
|        | 金属工学科      |      |            |    | 1  | 1  | 27      | 21     | 50  |       |
|        | 機械工学科      |      |            |    |    | 4  | 31      | 29     | 64  |       |
|        | 生産機械工学科    |      |            |    | 1  |    | 23      | 21     | 45  |       |
|        | 化学工学科      |      | 1          |    | 1  | 2  | 26      | 20     | 50  |       |
|        | 電子工学科      |      |            |    |    | 4  | 29      | 11     | 44  |       |
|        | 計          |      | 1          |    | 4  | 16 | 204     | 134    | 359 |       |
| 合 計    |            |      |            | 1  | 4  | 8  | 37      | 940    | 322 | 1,312 |

# 昭和58年度学生教育研究災害傷害保険加入状況

(58. 5. 1. 現在)

| 学部    | 学科(課程)     | 1 年生  |       |      | 2 年生  |       |      | 3 年生  |       |      | 4 年生  |       |      | 合 計   |       |      |
|-------|------------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|-------|-------|------|
|       |            | 在学者   | 加入者   | 加入率  | 在学者   | 加入者   | 加入率  | 在学者   | 加入者   | 加入率  | 在学者   | 加入者   | 加入率  | 在学者   | 加入者   | 加入率  |
| 人文学部  | 人文学科       | 89    | 89    | 100  | 89    | 89    | 100  | 74    | 74    | 100  | 112   | 78    | 69.6 | 364   | 330   | 90.7 |
|       | 語文学科       | 80    | 80    | 100  | 76    | 76    | 100  | 94    | 94    | 100  | 99    | 79    | 79.8 | 349   | 329   | 94.3 |
|       | 計          | 169   | 169   | 100  | 165   | 165   | 100  | 168   | 168   | 100  | 211   | 157   | 74.4 | 713   | 659   | 92.4 |
| 教育学部  | 小学校教員養成課程  | 140   | 140   | 100  | 139   | 139   | 100  | 140   | 140   | 100  | 153   | 142   | 92.8 | 572   | 561   | 98.1 |
|       | 中学校教員養成課程  | 50    | 50    | 100  | 50    | 50    | 100  | 50    | 50    | 100  | 58    | 46    | 79.3 | 208   | 197   | 94.7 |
|       | 養護学校教員養成課程 | 20    | 20    | 100  | 20    | 20    | 100  | 19    | 19    | 100  | 20    | 20    | 100  | 79    | 79    | 100  |
|       | 幼稚園教員養成課程  | 30    | 30    | 100  | 29    | 29    | 100  | 30    | 30    | 100  | 36    | 29    | 80.6 | 125   | 118   | 94.4 |
|       | 計          | 240   | 240   | 100  | 238   | 238   | 100  | 239   | 239   | 100  | 267   | 238   | 89.1 | 984   | 955   | 97.1 |
| 経済学部  | 経済学科       | 120   | 120   | 100  | 116   | 116   | 100  | 114   | 114   | 100  | 154   | 116   | 75.3 | 504   | 466   | 92.5 |
|       | 経営学科       | 120   | 120   | 100  | 119   | 119   | 100  | 120   | 120   | 100  | 157   | 154   | 98.1 | 516   | 513   | 99.4 |
|       | 経営法学科      | 59    | 59    | 100  | 60    | 60    | 100  | 59    | 59    | 100  | 66    | 65    | 98.5 | 244   | 243   | 99.6 |
|       | 計          | 299   | 299   | 100  | 295   | 295   | 100  | 293   | 293   | 100  | 377   | 335   | 88.9 | 1,264 | 1,222 | 96.7 |
| 理学部   | 数学科        | 40    | 40    | 100  | 40    | 40    | 100  | 38    | 36    | 94.7 | 51    | 40    | 78.4 | 169   | 156   | 92.3 |
|       | 物理学科       | 40    | 40    | 100  | 39    | 39    | 100  | 41    | 41    | 100  | 57    | 40    | 70.2 | 177   | 160   | 90.4 |
|       | 化学科        | 40    | 40    | 100  | 39    | 39    | 100  | 33    | 33    | 100  | 50    | 38    | 76.0 | 162   | 150   | 92.6 |
|       | 生物学科       | 30    | 30    | 100  | 30    | 30    | 100  | 28    | 28    | 100  | 36    | 27    | 75.0 | 124   | 115   | 92.7 |
|       | 地球学科       | 30    | 30    | 100  | 30    | 30    | 100  | 29    | 29    | 100  | 40    | 30    | 75.0 | 129   | 119   | 92.2 |
|       | 計          | 180   | 180   | 100  | 178   | 178   | 100  | 169   | 167   | 98.8 | 234   | 175   | 74.8 | 761   | 700   | 92.0 |
| 工学部   | 電気工学科      | 50    | 50    | 100  | 49    | 49    | 100  | 54    | 54    | 100  | 59    | 50    | 84.7 | 212   | 203   | 95.8 |
|       | 工業化学科      | 44    | 44    | 100  | 44    | 44    | 100  | 42    | 42    | 100  | 54    | 41    | 75.9 | 184   | 171   | 92.9 |
|       | 金属工学科      | 40    | 40    | 100  | 39    | 39    | 100  | 37    | 37    | 100  | 62    | 42    | 67.7 | 178   | 158   | 88.8 |
|       | 機械工学科      | 50    | 50    | 100  | 50    | 50    | 100  | 47    | 47    | 100  | 72    | 50    | 69.4 | 219   | 197   | 90.0 |
|       | 生産機械工学科    | 40    | 40    | 100  | 40    | 40    | 100  | 40    | 40    | 100  | 49    | 40    | 81.6 | 169   | 160   | 94.7 |
|       | 化学工学科      | 40    | 40    | 100  | 40    | 40    | 100  | 35    | 35    | 100  | 57    | 39    | 68.4 | 172   | 154   | 90.0 |
|       | 電子工学科      | 40    | 40    | 100  | 37    | 37    | 100  | 42    | 42    | 100  | 47    | 41    | 87.2 | 166   | 160   | 96.4 |
|       | 計          | 304   | 304   | 100  | 299   | 299   | 100  | 297   | 297   | 100  | 400   | 303   | 75.8 | 1,300 | 1,203 | 92.5 |
|       | 学部計        | 1,192 | 1,192 | 100  | 1,175 | 1,175 | 100  | 1,166 | 1,164 | 99.8 | 1,489 | 1,208 | 81.1 | 5,022 | 4,739 | 94.4 |
|       | 大学院        | 理学研究科 | 25    | 24   | 96.0  | 29    | 25   | 86.2  |       |      |       |       |      |       | 54    | 49   |
| 工学研究科 |            | 41    | 39    | 95.1 | 33    | 33    | 100  |       |       |      |       |       |      | 74    | 72    | 97.2 |
| 専攻科   | 文学専攻科      | 16    | 10    | 62.5 |       |       |      |       |       |      |       |       |      | 16    | 10    | 62.5 |
|       | 教育学専攻科     | 6     | 5     | 83.3 |       |       |      |       |       |      |       |       |      | 6     | 5     | 83.3 |
| 研究生   | 経済学専攻      |       |       |      |       |       |      |       |       |      |       |       |      |       |       |      |
|       | 計          | 27    | 2     | 7.4  |       |       |      |       |       |      |       |       |      | 27    | 2     | 7.4  |
| 合計    |            | 1,307 | 1,272 | 97.3 | 1,237 | 1,233 | 99.7 | 1,166 | 1,164 | 99.8 | 1,489 | 1,208 | 81.1 | 5,199 | 4,877 | 93.8 |



## ◇昭和57年度学生教育研究災害傷害保険利用状況

1. 月別事故発生件数

(58. 3. 31現在)

| 57年 |    | 58年 |    |    |    | 計 |     |     |     |    |    |    |
|-----|----|-----|----|----|----|---|-----|-----|-----|----|----|----|
| 4月  | 5月 | 6月  | 7月 | 8月 | 9月 |   | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 件数  | 4  | 7   | 8  | 2  | 3  | 2 | 5   | 3   | 4   | 4  | 6  | 53 |

2. 専攻分野別事故発生状況

| 区分   |   | 課 中         |   |       |   |   |           |           |   |   |    |    |    |    | 合 計 |    |       |    | 大 学 院 |    |    | 合 計 |    |    |   |   |    |
|------|---|-------------|---|-------|---|---|-----------|-----------|---|---|----|----|----|----|-----|----|-------|----|-------|----|----|-----|----|----|---|---|----|
|      |   | 正           |   |       | 中 |   |           | 課 外 活 動 中 |   |   |    |    |    |    | 部   |    | 大 学 院 |    |       |    |    |     |    |    |   |   |    |
|      |   | 体 育 の 実 技 中 |   | そ の 他 | 計 |   | 実 験 実 習 中 |           | 男 | 女 | 計  |    | 男  | 女  | 計   |    | 1年    | 2年 | 計     |    |    |     |    |    |   |   |    |
| 専攻分野 | 部 | 男           | 女 | 計     | 男 | 女 | 計         | 男         | 女 | 計 | 男  | 女  | 計  | 1年 | 2年  | 計  | 1年    | 2年 | 計     |    |    |     |    |    |   |   |    |
| 人文学部 | 文 |             |   |       |   |   |           | 1         |   | 1 |    |    | 1  | 1  |     |    |       |    |       | 1  |    |     |    |    |   |   |    |
| 教育学部 | 科 | 3           | 7 | 10    |   |   |           | 1         | 1 | 2 | 5  | 5  | 10 | 8  | 13  | 21 |       |    | 2     | 21 |    |     |    |    |   |   |    |
| 経済学部 | 系 | 4           |   | 4     |   |   |           |           |   | 4 |    |    | 9  | 13 |     |    |       |    | 2     | 13 |    |     |    |    |   |   |    |
| 計    |   | 7           | 7 | 14    |   |   |           | 1         | 1 | 2 | 7  | 8  | 15 | 22 | 13  | 35 | 9     | 12 | 10    | 4  | 35 |     |    |    |   |   |    |
| 理学部  |   | 2           |   | 2     | 2 | 2 | 4         | 1         |   | 1 | 5  | 2  | 7  | 2  | 7   | 9  | 2     |    | 2     | 3  | 7  | 2   | 9  |    |   |   |    |
| 工学部  |   | 3           |   | 3     | 2 | 2 | 2         |           |   | 5 | 5  | 5  | 4  | 9  | 9   |    |       |    | 3     | 4  | 9  |     | 9  |    |   |   |    |
| 計    |   | 5           |   | 5     | 4 | 2 | 6         | 1         |   | 1 | 10 | 2  | 12 | 6  | 16  | 18 | 4     |    | 5     | 7  | 16 | 2   | 18 |    |   |   |    |
| 合計   |   | 12          | 7 | 19    | 4 | 2 | 6         | 1         | 1 | 2 | 17 | 10 | 27 | 21 | 5   | 26 | 38    | 15 | 53    | 13 | 12 | 15  | 11 | 51 | 2 | 2 | 53 |

3. 体育の実技中

| 区 分         | 男  | 女 | 計  |
|-------------|----|---|----|
| ソフトボール      | 6  |   | 6  |
| バスケットボール    | 2  | 1 | 3  |
| 縄 飛 び       |    | 2 | 2  |
| ス キ ー       |    | 2 | 2  |
| 飛 箱         | 1  |   | 1  |
| 柔 道         | 1  |   | 1  |
| 鉄 棒         | 1  | 1 | 2  |
| サ ッ カ ー     | 1  |   | 1  |
| ポ ー ト ボ ー ル |    | 1 | 1  |
| 計           | 12 | 7 | 19 |

4. 理工系の実験実習中

| 事 故 原 因                | 男 | 女 | 計 |
|------------------------|---|---|---|
| ガラス器具の破損               |   | 1 | 1 |
| 薬 品 の 付 着              | 2 | 1 | 3 |
| 土壌の選別の際爪の中に<br>土壌が入り化膿 | 1 |   | 1 |
| 物 を 運 搬 中              | 1 |   | 1 |
|                        |   |   |   |
|                        |   |   |   |
|                        |   |   |   |
|                        |   |   |   |
| 計                      | 4 | 2 | 6 |

5. その他の正課中

| 区 分      | 男 | 女 | 計 |
|----------|---|---|---|
| 木工製作中    |   | 1 | 1 |
| 移動中(図書館) | 1 |   | 1 |
|          |   |   |   |
|          |   |   |   |
|          |   |   |   |
|          |   |   |   |
|          |   |   |   |
| 計        | 1 | 1 | 2 |

6. 課外活動中

| 部 名       | 男  | 女 | 計  |
|-----------|----|---|----|
| 硬 式 野 球   | 6  |   | 6  |
| 水 泳       | 1  |   | 1  |
| 少 林 寺 拳 法 | 1  |   | 1  |
| 柔 道       | 1  |   | 1  |
| バレーボール    | 2  |   | 2  |
| 剣 道       | 1  | 1 | 2  |
| バトミントン    |    | 1 | 1  |
| 卓 球       | 1  |   | 1  |
| バスケット     | 1  | 3 | 4  |
| 山 岳       | 1  |   | 1  |
| ラ グ ビ ー   | 3  |   | 3  |
| 陸 上 競 技   | 1  |   | 1  |
| ソフトボール    | 1  |   | 1  |
| サ ッ カ ー   | 1  |   | 1  |
| 計         | 21 | 5 | 26 |

7. 事故発生場所(どの場所が多いか)

| 場 所         | 件 数 | 割 合 |
|-------------|-----|-----|
| 体 育 館       | 19  | 36  |
| グ ラ ウ ン ド   | 17  | 32  |
| 実 験 ・ 実 習 室 | 8   | 15  |
| ス キ ー 場     | 2   | 4   |
| 武 道 館       | 5   | 9   |
| 山 岳         | 1   | 2   |
| プ ー ル       | 1   | 2   |
|             |     |     |
|             |     |     |
|             |     |     |
| 計           | 53  | 100 |

8. 傷害種類別件数(男女別)

| 傷 害 名 | 男  | 女  | 計  |
|-------|----|----|----|
| 捻 挫   | 10 | 7  | 17 |
| 骨 折   | 8  | 1  | 9  |
| 打 撲   | 3  | 1  | 4  |
| 切 傷   |    | 2  | 2  |
| 裂 傷   | 1  |    | 1  |
| 靭帯損傷  | 7  | 1  | 8  |
| 化 膿   | 1  |    | 1  |
| 脱 臼   | 2  | 2  | 4  |
| 火 傷   | 2  | 1  | 3  |
| 挫 傷   | 4  |    | 4  |
| 計     | 38 | 15 | 53 |

# ◇ 昭和57年度保健管理センター利用状況調

(1) 診療室利用者数

| 病種        | 男子学生 |     |     |     |     |     |       |       |    |     | 女子学生 |    |     |   |     |       |       |  |  |  | 合計 |
|-----------|------|-----|-----|-----|-----|-----|-------|-------|----|-----|------|----|-----|---|-----|-------|-------|--|--|--|----|
|           | 文理   | 人文  | 教育  | 経済  | 理   | 工   | 教養    | 計     | 文理 | 人文  | 教育   | 経済 | 理   | 工 | 教養  | 計     |       |  |  |  |    |
| 風邪        | 6    | 123 | 49  | 180 | 141 | 267 | 218   | 984   |    | 27  | 47   | 6  | 16  | 1 | 63  | 160   | 1,144 |  |  |  |    |
| 胃腸の疾患     |      | 32  | 17  | 71  | 57  | 59  | 95    | 331   |    | 8   | 23   | 7  | 11  |   | 33  | 82    | 413   |  |  |  |    |
| 打撲・捻挫・突き指 |      | 43  | 31  | 65  | 81  | 64  | 163   | 447   |    | 13  | 83   | 1  | 15  |   | 73  | 185   | 632   |  |  |  |    |
| 切傷・擦過傷・刺傷 |      | 61  | 36  | 90  | 71  | 164 | 257   | 679   |    | 15  | 72   | 1  | 14  |   | 95  | 197   | 876   |  |  |  |    |
| 眼の疾患      | 2    | 4   | 4   | 13  | 19  | 18  | 46    | 106   |    | 9   | 13   | 2  | 16  |   | 31  | 71    | 177   |  |  |  |    |
| 耳・鼻の疾患    |      | 5   | 1   | 4   | 5   | 4   | 5     | 24    |    | 3   | 3    |    | 3   |   | 7   | 16    | 40    |  |  |  |    |
| 歯・口腔の疾患   | 2    | 57  | 25  | 83  | 54  | 24  | 59    | 304   |    | 8   | 28   | 2  | 7   | 2 | 26  | 73    | 377   |  |  |  |    |
| 皮膚の疾患     |      | 11  |     | 25  | 11  | 17  | 47    | 111   |    | 7   | 8    |    | 9   |   | 20  | 44    | 155   |  |  |  |    |
| 火傷        | 1    |     |     | 13  | 7   | 18  | 17    | 56    |    |     | 15   |    | 2   |   | 7   | 24    | 80    |  |  |  |    |
| 貧血        |      |     |     | 3   | 2   | 1   | 6     | 12    |    | 1   | 5    |    | 1   |   | 9   | 16    | 28    |  |  |  |    |
| 健康相談      |      | 14  | 7   | 29  | 21  | 2   | 32    | 105   |    | 4   | 15   | 2  | 5   |   | 26  | 52    | 157   |  |  |  |    |
| その他       | 2    | 18  | 19  | 57  | 52  | 17  | 108   | 273   |    | 13  | 58   | 2  | 13  | 1 | 57  | 144   | 417   |  |  |  |    |
| 休養        |      |     | 1   | 2   | 2   | 5   | 20    | 30    |    | 5   | 9    | 2  | 3   |   | 12  | 31    | 61    |  |  |  |    |
| 検血        |      | 3   | 4   | 26  | 14  | 19  | 21    | 87    |    | 5   | 14   | 2  | 2   |   | 15  | 38    | 125   |  |  |  |    |
| 尿検        |      | 3   | 1   | 11  | 2   | 15  | 4     | 36    |    | 3   | 4    |    |     |   | 2   | 9     | 45    |  |  |  |    |
| 合計        | 13   | 374 | 195 | 672 | 539 | 694 | 1,098 | 3,585 |    | 121 | 397  | 27 | 117 | 4 | 476 | 1,142 | 4,727 |  |  |  |    |

在籍学生数 5,172名 (男 3,656名 女 1,516名)

(2) 学生相談関係来談者数

|            | 相談件数 | 相談延人数 |
|------------|------|-------|
| 修学上に関するもの  | 50 件 | 60 人  |
| 精神衛生に関するもの | 65   | 105   |
| 栄 養 相 談    | 100  | 105   |
| そ の 他      | 44   | 60    |
| 合 計        | 259  | 330   |

(注) その他=医学相談, 課外活動関係

## 昭和 58 年度後期授業料免除について

後期授業料の免除については、さき開催の授業料等減免選考委員会の選考を経て、出願者 605 名 (学部 563 名, 大学院 38 名, 専攻科 4 名) に対して、458 名 (学部 424 名, 大学院 31 名, 専攻科 3 名) を許可し 85 名 (学部 84 名, 大学院 1 名) については文部省と免除の是非について協議中である。

(参考) 前期授業料免除実施状況

| 区 分   | 出 願 者 | 許 可 者 | 不許可者 |
|-------|-------|-------|------|
| 学 部   | 603 名 | 508 名 | 95 名 |
| 大 学 院 | 46    | 35    | 11   |
| 専 攻 科 | 7     | 4     | 3    |
| 計     | 656   | 547   | 109  |

~~~~~ 学園ニュース編集委員 ~~~~~

| | | | |
|------|---------|-----|---------|
| 学生部長 | 本 田 弘 | 理学部 | 松 本 賢 一 |
| 人文学部 | 山 口 幸 祐 | 〃 | 広 岡 公 夫 |
| 〃 | 釘 貫 亨 | 工学部 | 多 々 静 夫 |
| 教育学部 | 大 塚 恵 一 | 〃 | 杉 本 益 規 |
| 〃 | 山 本 都 久 | 教養部 | 高 安 和 子 |
| 経済学部 | 今 井 晴 男 | 〃 | 山 本 孝 一 |
| 〃 | 小 原 久 治 | | |